

アヌココロ アイヌ イコロマケナル
国立アイヌ民族博物館
年 報
2020（令和2）年度



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館
年報 2020（令和2）年度

国立アイヌ民族博物館

年報 2020（令和 2）年度

館長あいさつ

イランカラブテ

『国立アイヌ民族博物館年報 2020（令和 2）年度』を刊行します。

アヌココロ アイヌ イコロマケナル、国立アイヌ民族博物館は 2020（令和 2）年 4 月に、民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）の中核施設の 1 つとして、文化庁が公益財団法人アイヌ民族文化財団に運営を委託するという形で発足しました。その設立理念に「この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」（『民族共生の象徴となる空間』における博物館の基本構想』2013 年）とある通り、当博物館はアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進し、新しい文化の創造・発展に寄与する活動に特化した、我が国初の国立博物館です。

当年報にはこの博物館が発足した 2020（令和 2）年度の事業がすべて紹介されています。初年度の年報、すなわち活動報告の刊行がこのように遅れたことはひとえに館長の責任なのですが、第 1 号にあたるので、作成に時間がかかってしまいました。この後に続く号はできる限り速やかに刊行していきたいと考えております。

2020 年は今なお続く新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まった年です。当初この年の 4 月 24 日に予定されていた民族共生象徴空間の開業も、この感染症の急速な拡大のために延期を余儀なくされ、7 月 12 日になってようやく一般公開を始めることができるようになりました。当館の開館もこの日になります。しかし、感染症の拡大防止のために入場前の検温、手指消毒の徹底、入場者数の制限など今も行われている各種の対策がとられました。

博物館では特に日本博物館協会が出したガイドラインに則る形で、各種の制限を設け、その一環として時間当りの入場者制限を行いました。当初は展示室への入場者を 1 時間当たり 100 人として、公園の入場チケット予約とは別に 1 時間単位の博物館の入館予約制（ネットでの整理券の発行）を採用しました。しかしそのために、公園に入ることができても博物館の展示を見学できないという人が続出して、大変な不評を被りました。その後制限は 1 時間当たり 200 人に緩和され、さらに翌年度には 250 人と入場枠は広がりましたが、時間ごとの入場制限自体は 2022 年度の途まで継続されました。

また、博物館の展示には、模型や実物を直接触ってアイヌ文化を学びつつ、展示を深く理解するための体験型展示（「探究展示 テンパテンバ」）やタッチパネルで選べる映像展示などを多数用意して、アイヌ文化をより深く理解するための工夫をしていたのですが、感染防止のために、さわる展示、触れる装置などの使用ができなくなり、博物館の展示としては不完全な形での船出となりました。

しかしそれでも、初年度の 2020 年度には開業以来ウポポイ全体で 22 万人、博物館には 17 万人の来場者を迎えることができました。

このような逆境の中で船出した国立アイヌ民族博物館ですが、展示では基本展示だけでなく、特別展示（開館特別展『サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～』（2020 年 7 月 12 日～11 月 8 日）と第 1 回テーマ展示『収蔵資料展 イコロー資料にみる素材と技—』（2020 年 12 月 1 日～2021 年 5 月 23 日）を開催しました。また、教育旅行への対応として「はじめてのアイヌ博」と呼ぶ、小中高校の生徒たちに博物館展示の見方をアドバイスし、アイヌ文化の理解を深めるための教育プログラムを実施しました。他方、準備室時代（国立アイヌ民族博物館設立準備室）から続けられてきましたアイヌ文化関連資料の収集活動も続けられ、2020 年度には新規購入が 95 件 110 点、寄贈が 8 件 11 点ありまし

た。また、既存資料のデータベースへの登録、当館収蔵庫の整備、継続使用されていた旧社台小学校に設置されていた仮収蔵庫での資料のクリーニングと整理も続けられました。調査研究では、体制整備に時間がとられたことから、本格的なプロジェクトの開始は年度の後半以降となってしまいましたが、それでも24の研究プロジェクトが実施されました。また、これも準備室時代から進められてきました博物館ネットワークの整備も進み、2020年度末までに名称を「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」、その愛称を「ブンカラ」（アイヌ語でツタを意味することば）とすることが決まり、募集を開始しました。

広報活動では博物館独自の広報誌『アヌアヌ』（アヌココロ アイヌ イコロマケナル ソンコ 国立アイヌ民族博物館ニュースレター）の刊行を始め、2020年3月刊行の創刊準備号に続けて、翌2021年3月までに1号から3号までの3冊を刊行しました。また、ウポポイ全体とは別に博物館独自のホームページを立ち上げ、展示、調査・研究、教育普及・イベントの情報を提供するとともに、アイヌ文化に関する基礎的な疑問に答えるための想定問答集「よくある質問——アイヌの歴史・文化の基礎知識」を公開しました。

運営では、アイヌ文化を担う方々やアイヌの歴史と文化を研究されている方々の意見を広く受け止め、それを中長期的な視野を持って博物館の運営に生かしていくために、博物館運営会議を設けました。2020年度には1月18日に17人の委員の方に集まっていただき（リモートでの参加も含む）、貴重なご意見を伺い、今後の博物館の運営に役立てて行くことになりました。

このようにアヌココロ アイヌ イコロマケナル、国立アイヌ民族博物館は、開館した2020年度に様々な事業を実施しました。詳細はこの年報に収められていますので、是非ご覧下さい。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2022年12月

アヌココロ アイヌ イコロマケナル サパネクル エトゥナンカラ
国立アイヌ民族博物館館長 佐々木史郎

目 次

館長あいさつ	3
I 概要	9
I -01 理念 目的	9
I -02 沿革	10
I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について	12
I -04 博物館のロゴマークについて	15
I -05 位置と周辺環境	17
II 管理運営	19
II -01 組織	19
II -01-01 組織図	
II -01-02 人員構成	
II -01-03 専門グループ	
II -02 委員会	24
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議	
II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会	
III 施設	31
III -01 施設概要	31
III -01-01 整備の基本方針	
III -01-02 施設概要	
III -02 建物の整備の基本方針と計画内容	32
III -03 建物の平面図	35
III -04 1階の施設	36
III -04-01 1階来館者ゾーンの施設	
アパサム	エントランスロビー
イノカヌカラ トウンブ	シアター
ウエネウサラ トウンブ	交流室
カンピソシヌカラ トウンブ	ライブラリ
イコロマケンルイホク ウシ	ミュージアムショップ
チエトウン スウォブ オマ トウンブ	ロッカー室
イカオイキ トウンブ	救護室

アシンル・セブ アシンル	トイレ・多目的トイレ	
III -04-02 1階管理・運営ゾーンの施設		
カンビヌイエ トウンブ	調査研究室	
ヤイバカシヌ トウンブ	研修室	
イコロ ウワンテ トウンブ	分析調査室	
CT トウンブ	CT 室	
イパカレ トウンブ	燻蒸室	
イノカウク トウンブ	撮影室	
III -05 2階の施設		48
III -05-01 来館者ゾーンの施設		
インカラ ウシ	パノラミックロビー	
イコロ トウンブ	基本展示室	
イアシケウク	導入展示	
アエキルシ	プラザ展示	
イタク	私たちのことば	
イノミ	私たちの世界	
ウレシパ	私たちの暮らし	
ウパシクマ	私たちの歴史	
ネブキ	私たちのしごと	
ウコアプカシ	私たちの交流	
イケレウシ「テンパテンパ」	探究展示 テンパテンパ	
シサク イコロ トウンブ	特別展示室	
アシンル	トイレ	
ニカラ、トウシエリキンペ、シモイエニカラ、	階段、エレベーター、エスカレーター	
III -05-02 管理・運営ゾーンの施設		
イコロ プ	収蔵庫	
イコロ プ セム	収蔵庫前室	
イコロ プ	一般収蔵庫	
シサク イコロ プ	特別収蔵庫	
サパネクル トウンブ	館長室	
ウエカプ トウンブ	応接室	
IV 2020(令和2)年度事業		71
IV -01 2020(令和2)年度主要事項		71
IV -02 入館者数(月別)		73
IV -03 展示		74
IV -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催		
IV -03-02 テーマ展示及びエントランスロビー展示の企画立案・計画策定、開催		
IV -03-03 2021(令和3)年度の特別展示及びテーマ展示の企画立案、計画策定、準備		
IV -03-04 東京パラリンピック等のイベントに関連したパネル展等の企画立案、計画策定		

IV -03-05 基本展示の更新	
IV -03-06 音声ガイド機の維持管理、内容更新、携帯アプリの配信及びコンテンツの更新	
IV -03-07 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行	
IV -04 調査研究	83
IV -04-01 調査研究事業	
IV -04-02 ネットワーク事業	
IV -04-03 研究集会の企画・開催	
IV -04-04 研究成果の社会発信	
IV -04-05 レファレンス	
IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備	
IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施	
IV -04-08 刊行物	
IV -04-09 国際交流	
IV -05 資料の収集、保管、活用	98
IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出	
IV -05-02 博物館内及び旧社台小収蔵庫における列品等の整理及び整備	
IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理	
IV -05-04 資料の熟覧・画像利用	
IV -05-05 分析機器運用	
IV -05-06 資料収蔵環境整備 (IPM、燻蒸を含む)	
IV -06 教育普及	103
IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施	
IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施	
IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討	
IV -06-04 博物館ライブラリの運営	
IV -06-05 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム	
IV -06-06 学校教育と連携した取り組みの企画立案	
IV -07 一般運営業務	110
IV -07-01 利用サービス	
IV -07-02 広報企画	
IV -07-03 事業予算	

I 概要

I -01 理念・目的

理 念

この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

(『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より)

目 的

1. アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
2. アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
3. アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
4. アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

(『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より)

I-02 沿革

- 1965年 白老町でポロトコタン営業開始
- 1967年 白老町立白老民俗資料館開業
- 1984年 北海道ウタリ協会総会で「アイヌ民族に関する法律（案）」が採択される
- 1984年 アイヌ民族博物館開業
- 1987年 第5回国連人権委員会人権保護小委員会先住民作業部にアイヌ民族の代表が参加
- 1992年 国連総会で野村義一北海道ウタリ協会理事長が記念演説
- 1993年 国連総会が「世界の先住民族の国際年」を宣言（1995年～2004年を「世界の先住民の国際の10年」、2005年～2014年を「第2次世界の先住民の国際の10年」に指定）
- 1995年3月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 1996年4月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
- 1997年5月 「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（アイヌ文化振興法）公布。この法律の成立に伴い北海道旧土人保護法、並びに旭川市旧土人保護地処分法が廃止される
- 1997年11月 アイヌ文化振興法の指定法人として財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構を指定
- 2007年9月 国連総会「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択
- 2008年6月 衆参両院「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
- 2008年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 2009年7月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
「民族共生の象徴となる空間」（民族共生象徴空間）の構想が初めて打ち出される
- 2009年12月 アイヌ政策推進会議（座長：内閣官房長官）発足
- 2010年3月 アイヌ政策推進会議に民族共生の象徴となる空間、北海道外アイヌの生活実態調査の両作業部会設置
- 2011年6月 両作業部会が『報告書』を提出（民族共生象徴空間の設置場所を北海道白老郡白老町のポロト湖畔に選定）
- 2011年8月 アイヌ政策推進会議に政策推進作業部会設置
- 2012年3月 「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（以下、博物館調査検討委員会）発足
- 2012年7月 『「民族共生の象徴となる空間」基本構想』（アイヌ政策関係省庁連絡会議）
- 2013年8月 『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』（博物館調査検討委員会）
- 2013年11月 博物館調査検討委員会の下に「展示・調査研究」、「施設整備」、「組織運営」の3つの専門部会を設置
- 2014年6月 「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定
- 2015年3月 『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』（国土交通省北海道開発局）、『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画報告書』（博物館調査検討委員会）
- 2015年7月 『国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画』（文化庁）
- 2015年11月 文化庁が「国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室」を文化庁内と札幌（北海道大学

- 北キャンパス総合研究棟3号館2階)に設置
- 2016年4月 『国立の民族共生公園（仮称）基本計画』（国土交通省北海道開発局）
- 2016年5月 アイヌ政策推進会議にて民族共生の象徴となる空間を「民族共生象徴空間」、中核施設の名称をそれぞれ「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」とすることが決定される。それにともない博物館設立準備室も「国立アイヌ民族博物館設立準備室」となる
- 2016年5月 『国立アイヌ民族博物館展示計画』（文化庁）
- 2016年7月 『「民族共生象徴空間」基本構想（改訂版）』（アイヌ総合政策推進会議）
- 2017年3月 『国立アイヌ民族博物館展示基本設計』、『国立アイヌ民族博物館建物基本設計』公表
- 2017年6月 『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について』の一部変更閣議決定
- 2017年9月 『国立アイヌ民族博物館展示実施設計』、『国立アイヌ民族博物館建物実施設計』策定
- 2017年12月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会設置
- 2018年1月 白老町の博物館建設予定地でアイヌ民族博物館主催のチセコテノミ（地鎮祭）実施
- 2018年3月 アイヌ民族博物館閉館
- 2018年4月 一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併して公益財団法人アイヌ民族文化財団設立
- 2018年5月 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議設置
- 2018年12月 民族共生象徴空間の愛称を「ウポポイ」（UPOPOY）とし、そのロゴと博物館のロゴを定める
- 2019年5月 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）施行。この法律の成立に伴いアイヌ文化振興法が廃止される
- 2019年9月 「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」閣議決定（この閣議決定により2014年の基本方針は廃止）
- 2019年9月 国立アイヌ民族博物館建物本体竣工、11月には博物館内（白老）にも準備室を設置
- 2020年2月 国立アイヌ民族博物館展示施工完了
- 2020年3月 国立アイヌ民族博物館設立準備室閉鎖
- 2020年4月 国立アイヌ民族博物館発足
- 2020年7月 民族共生象徴空間開業記念式典挙行（11日） 国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業（12日）

I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について

アイヌ語の復興を目的として、当館をはじめ民族共生象徴空間（ウポポイ）ではアイヌ語を第1言語と定めている。そのために館内及び展示室の解説パネルや案内サインにはアイヌ語が1行目、あるいは最初に表示されている。



博物館の館名板 第1行目がアイヌ語

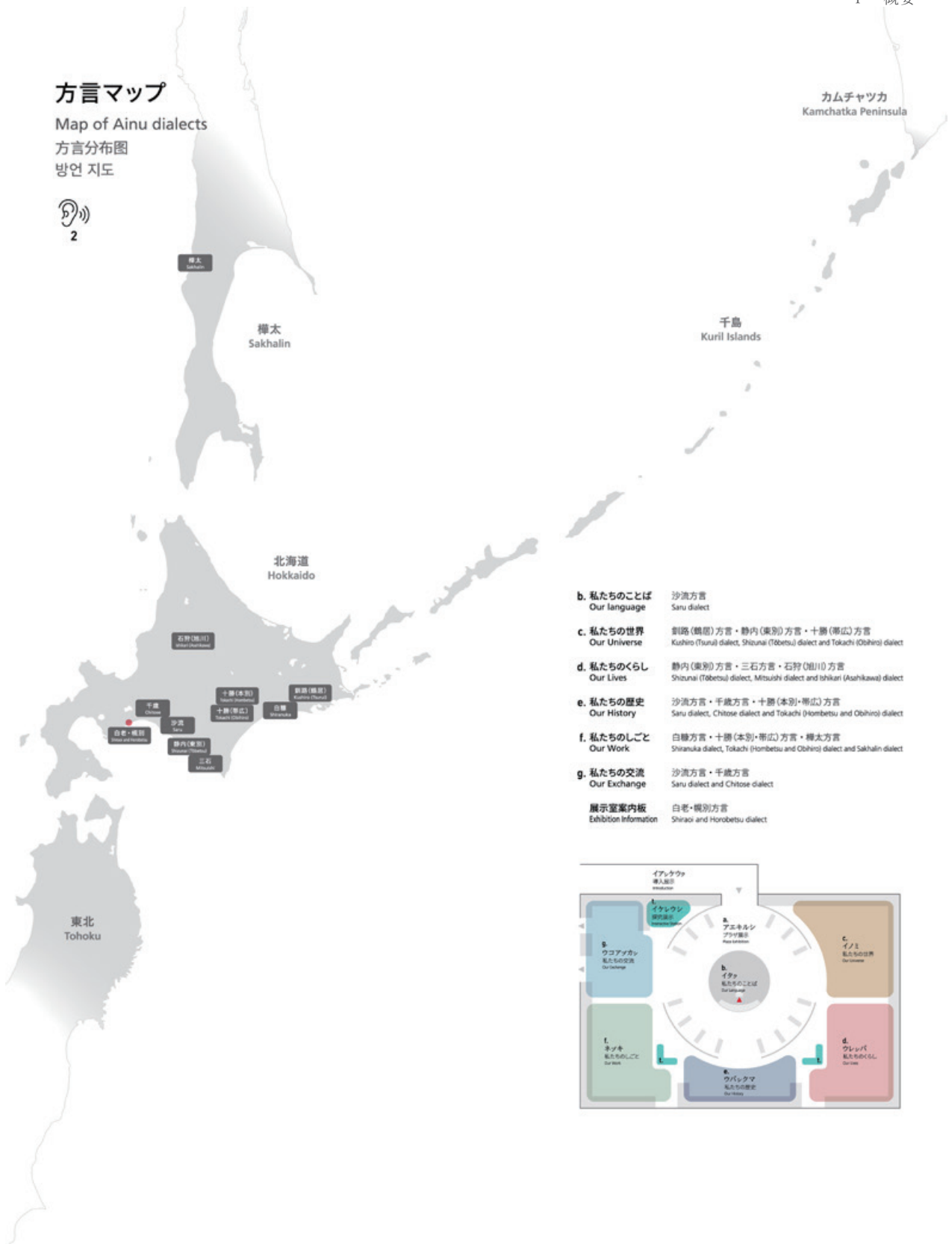
館名板の1行目にあるアイヌ語の館名は、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議が検討、提案し、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会が決定したものである。「アヌココロ」＝「私たちが持つ」、「イコロマケンル」＝「宝がある家」で、直訳すると「私たちが共有するアイヌの宝の館」となる。「私たちが共有する」が「国立」に対応し、「宝の館」が「博物館」を意味する。

また、アイヌ語は復興とともにその方言的な多様性を守っていくために、当館では基本展示室の中テーマ解説のアイヌ語文の作成を、各地域でことばを受け継ぐ人たちに依頼した。執筆者は自分が習得した方言で記述しているために、解説文ごとに異なる方言が使われている。基本展示の各テーマで使用された方言は以下の通りである。

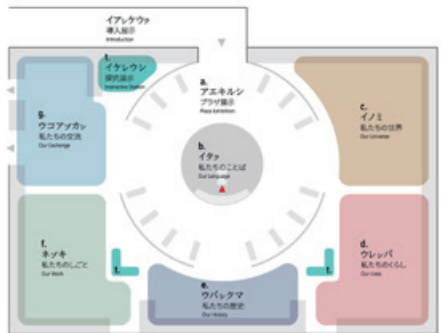
私たちのことば	沙流方言
私たちの世界	釧路（鶴居）方言、静内（東別）方言、十勝（帯広）方言
私たちの暮らし	静内（東別）方言、三石方言、石狩（旭川）方言
私たちの歴史	沙流方言、千歳方言、十勝（本別、帯広）方言
私たちのしごと	白糠方言、十勝（本別、帯広）方言、樺太方言
私たちの交流	沙流方言、千歳方言
展示室案内板	白老・幌別方言

方言マップ

Map of Ainu dialects
方言分布図
방언 지도



- b. 私たちのことば** 沙流方言
Our language Saru dialect
- c. 私たちの世界** 釧路(鶴居)方言・静内(東別)方言・十勝(帯広)方言
Our Universe Kushiro (Tsunai) dialect, Shizunai (Tobetsu) dialect and Tokachi (Obhiro) dialect
- d. 私たちの暮らし** 静内(東別)方言・三石方言・石狩(旭川)方言
Our Lives Shizunai (Tobetsu) dialect, Mitsushi dialect and Ishikari (Ashikawa) dialect
- e. 私たちの歴史** 沙流方言・千歳方言・十勝(本別・帯広)方言
Our History Saru dialect, Chitose dialect and Tokachi (Hombetsu and Obhiro) dialect
- f. 私たちのしごと** 白老方言・十勝(本別・帯広)方言・樺太方言
Our Work Shiranuka dialect, Tokachi (Hombetsu and Obhiro) dialect and Sakhalin dialect
- g. 私たちの交流** 沙流方言・千歳方言
Our Exchange Saru dialect and Chitose dialect
- 展示室内板** 白老・幌別方言
Exhibition Information Shiraoi and Horobetsu dialect



館内で使用されるアイヌ語の方言（基本展示「私たちのことば」より）



イノミ
[inomi]
私たちの世界
Our Universe
我们的宇宙
我們的宇宙
우리들의 세계
Наше мироздание
"Amoson"

c.1

カムイとのかわり
カムイトゥラオカヤン
[kamuy tura okayam]

Relations with the Kamuy
如何對待和敬奉 kamuy(神靈)
如何對待和敬奉 kamuy(神靈)
카우이와 관계
Отношение (Соединение) к
камуй(духу предков)

カムイ アナトネ ネツネ ヲツカイキ アイヌ スカッベ ビツカ
エトツムネ チュイベネ フクス シタ ヤイタイケ ウイトム
アムコオ カネ イノソノ ハウ アンコヤイカサネ カムイ
オビツケ アンコヤイカサネ カムイノスアン クンベ タンナ
ネコン ネクス イノソノ ハウ オモ スエネキ コ カムイ
オレン コクムンリムモアン, ウチャルコマ ネ イヌアン
アノカイ アナトネ カムイ トウラ オカヤン キナ.

編者: 山本 隆雄 監修: 藤原 隆雄

カムイはいつも私たちアイヌを監視、またたかな
光をさすものです。そのため、私たちはあらゆるカムイ
に感謝の心をもち、敬意を込めながら祈りを捧げます。
万が一、私たちの祈りや願いをカムイが聞き入れな
かった場合には、祖先の行違をすることでカムイに
抗議をすることもあったと伝えられています。私たちは
カムイとともに暮らしています。

We Ainu are constantly watched over by our spirit-deities,
the kamuy. We express our gratitude for each and every
kamuy through reverence and the offering of prayers. That
said, if in the old days the kamuy did not listen to our
prayers or wishes, we sometimes staged intimidating
marches to protest their negligence. We Ainu go through
our lives fully conscious of our coexistence with the kamuy.

kamuy(神靈)是始終守护我们的伊努民族。为我们带来
温暖光辉的存在。因此，我们对所有的kamuy都秉持感
谢之心，恭敬虔诚地敬奉祈禱。万一kamuy没有回应我
们的敬奉和祈求，有时我们也会通过游行抗议kamuy疏
忽。我们和kamuy是共存的。

카우이는 항상 우리 아이누를 지켜보고 있으며, 무슨
말을 내어줍니다. 우리는 모든 카우이에게 감사의 마음을
갖고, 존경하는 마음으로 기도를 올립니다. 만약, 우리가
기원이나 소원을 카우이가 들을지 않을 경우에는,
유감적인 행동을 하여 카우이에게 항의를 했다고도 전해지
고 있습니다. 우리는 언제나 카우이와 함께 살아가고
있습니다.

5 言語で記された中テーマ解説
上から順にアイヌ語、日本語、英語、
中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語
（基本展示「私たちの世界」より）

I -04 博物館のロゴマークについて



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

I -04-01 国立アイヌ民族博物館ロゴマークコンセプト

伝統的なアイヌの家屋における屋根を支える構造のひとつである三脚（ケトゥンニ）をイメージ。アイヌ文化の復興、新たな文化の創造を「支える」イメージ。

メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。

下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表す表現にも用いられる数「6」とし、多くの人びとが集うことをイメージ。博物館の基本展示を校正するテーマ展示の数「6」とも合致。

（『国立アイヌ民族博物館ロゴマークマニュアル』より）

I -04-02 その他のロゴマークの使い方

■カラー表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
 国立アイヌ民族博物館

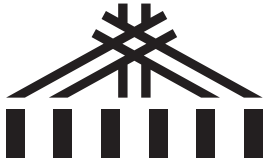
Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

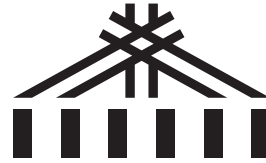
■モノクロ表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

■白抜き表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

I -05 位置と周辺環境

I -05-01 民族共生象徴空間の候補地選定の経緯

特に自然環境や交通アクセス等の自然的・地理的条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や施設等の集積状況、地元の関係機関等の協力体制等において優れている北海道白老町が候補地としてふさわしいと判断した。

白老町内においては、ポロト湖畔において、アイヌの人々が自ら設立したアイヌ文化に関する施設等を中心に舞踊等の伝承者の育成や体験学習等の活動が展開され、国内外から多くの観光客等が訪れているとともに、同湖の周辺の区域に、アイヌ文化の伝承活動等における利活用の実績のある森林、海洋等の自然環境等の資源がコンパクトにまとまって存在すること等から、同湖周辺の区域が象徴空間の中心的な区域として最もふさわしいと想定される。

(『「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書』アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会、2011年 pp.9-10 より)

I -05-02 民族共生象徴空間設置対象地と周辺の概況

対象地は、社台川水系ウツナイ川の流域にあり、背後の山々から自然休養林、ポロト、ウツナイ川を経て、ヨコスト湿原、太平洋につながる一連の自然環境が形成されており、ポロトの近隣には、アイヌの伝承においてポロトと対をなすポイントも位置している。

対象地周辺のポロト遺跡からは縄文中期の土器などが出土しており、その時代にはすでに、この地域に人が居住していたことがうかがえる。また、古くからコタンをつなぐ海に沿ったネットワークを通じて遠距離交易が行われていた。

—中略—

交通の面では、JR 白老駅から北東約 500m に位置するとともに、道央自動車道白老 IC から道道白老大滝線と町道を介して約 3Km で接続しており、道南の函館方面及び道央の札幌方面のいずれからも交通条件の至便な場所にある。

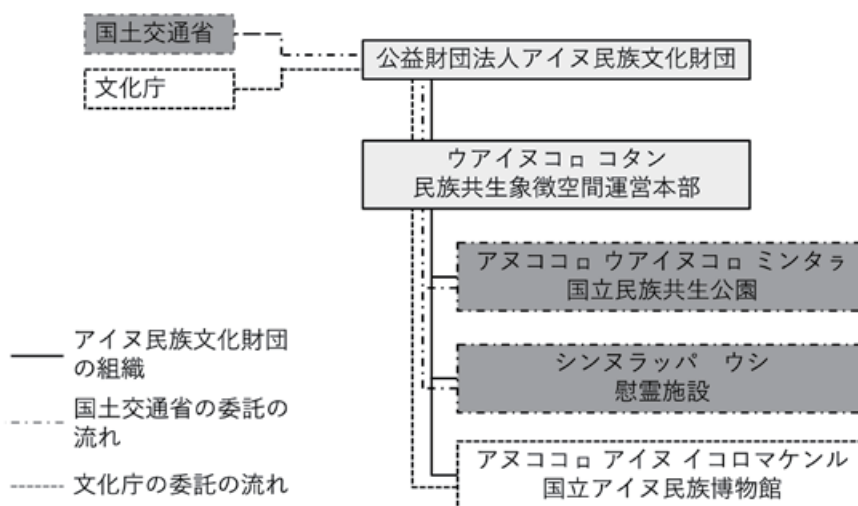
(『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.5 より)

II 管理運営

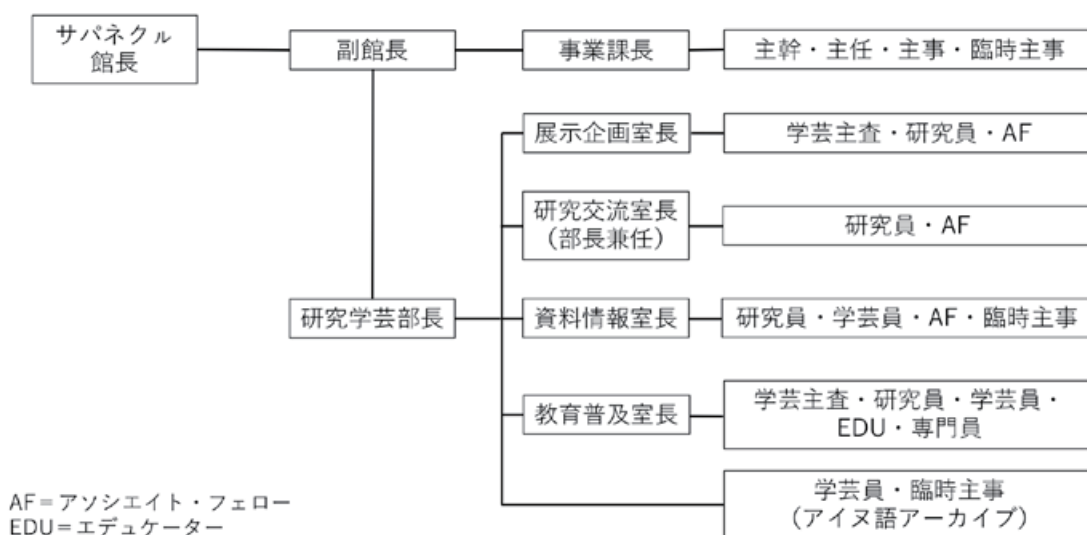
II -01 組織

II -01-01 組織図

民族共生象徴空間の組織



国立アイヌ民族博物館組織図 2021年3月現在



II -01-02 人員構成

2020（令和2）年度国立アイヌ民族博物館 人員構成（2021年3月時点）

所属室・課	役職名	氏 名
	館長	佐々木 史郎
	副館長	南 健一
	研究学芸部長	藪中 剛司
事業課	課長	石澤 博隆
事業課	主幹	高田 将寛
事業課	主幹	佐藤 直人
事業課	主任	佐々木 智恵
事業課	主事	山田 琴美
事業課	主事	上林 春奈
事業課	主事	小野 真鈴
事業課	臨時主事	小山田 郁子
事業課	臨時主事	澤口 利枝
事業課	臨時主事	赤堀 友里恵
事業課	臨時主事	宮本 ゆか
研究交流室	室長（部長兼務）	藪中 剛司
研究交流室	研究員	鈴木 建治
研究交流室	研究員	宮地 鼓
研究交流室	研究員	赤田 昌倫
研究交流室	研究員	日野 貴文
研究交流室	アソシエイトフェロー	是澤 櫻子
研究交流室	アソシエイトフェロー	谷地田 未緒
展示企画室	室長	田村 将人
展示企画室	学芸主査	立石 信一
展示企画室	研究員	笹木 一義
展示企画室	研究員	小林 美紀
展示企画室	研究員	深澤 美香
展示企画室	アソシエイトフェロー	マーク ジョン ウィンチェスター
展示企画室	アソシエイトフェロー	劉 高力
展示企画室	アソシエイトフェロー	権 保慶

資料情報室	室長	霜村 紀子
資料情報室	学芸員	北嶋 由紀
資料情報室	研究員	中井 貴規
資料情報室	学芸員	矢崎 春菜
資料情報室	研究員	大江 克己
資料情報室	学芸員	竹内 隼人
資料情報室	アソシエイトフェロー	古田嶋 智子
資料情報室	臨時主事	宮谷 初美
資料情報室	臨時主事	中村 孝子
教育普及室	室長（部長兼務）	藪中 剛司
教育普及室	学芸主査	八幡 巴絵
教育普及室	研究員	奥山 英登
教育普及室	研究員	関口 由彦
教育普及室	学芸員	押野 朱美
教育普及室	エドュケーター	両角 佑子
教育普及室	エドュケーター	今野 彩
教育普及室	エドュケーター	永石 理恵
教育普及室	エドュケーター	カサド パルド ケラール
教育普及室	エドュケーター	シン ウォンジ
教育普及室	エドュケーター	長谷 仁美
教育普及室	専門員（司書）	工藤 彩華
	学芸員（アイヌ語アーカイブ）	安田 益穂
	臨時主事（アイヌ語アーカイブ）	安田 千夏

II -01-03 専門グループ

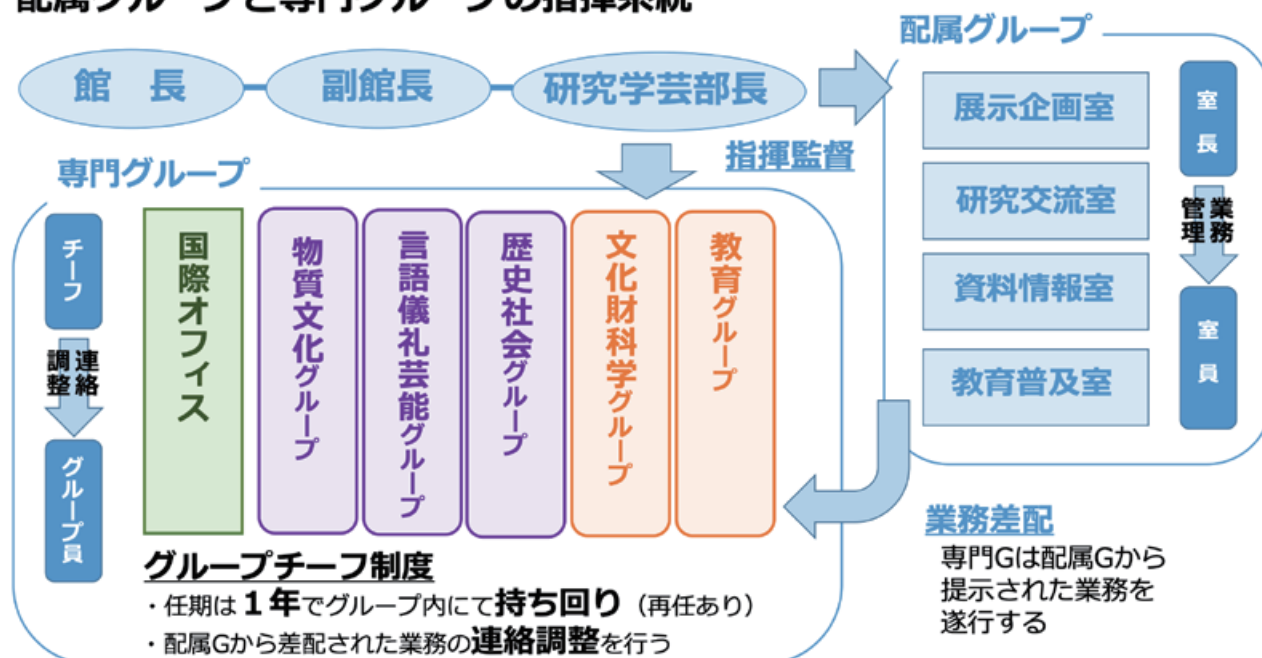
当博物館では、基本的に展示企画室、研究交流室、資料情報室、教育普及室の4室によって研究学芸業務がなされている。しかし、各研究員・学芸員はそれぞれの専門性を持って採用されているものの、各室の業務と合致していることは少ない。そのため専門が近い者どうしが集まり、室を越えて業務を処理することも多々あり、歪な状況にあった。

そこで、館長裁定による「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」に基づいて、5つの専門グループ（物質文化、言語儀礼芸能、歴史社会、文化財科学、教育）と国際オフィスを設置し、各室長から指示された用務を専門的に処理することとした。そこには、「専門的知見等を研究学芸部の業務に随時反映し処理する体制を整備することにより、博物館の機能強化及び生調査研究・学芸業務の充実・深化を図る」という狙いがある（上記「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」第1条による）。

研究学芸部所属の研究員・学芸員はいずれかの専門グループに所属する。国際オフィスには専門グループと重複して所属することを妨げない。なお、指揮系統としては、各グループとオフィスは研究学芸部長に直属する。また、各グループからチーフを選出し、研究学芸部長あるいは各グループ間の連絡調整を行う。チーフは1年交代として再任を妨げない。

この専門グループ、オフィスの体制は館長裁定により2020年9月1日より実施した。

配属グループと専門グループの指揮系統



2020（令和2）年度専門グループ構成（2021年3月時点）

【物質文化グループ】		
アイヌの歴史文化の基礎研究 主に物質文化に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
民具資料一般 動植物標本	藪中 剛司	物質文化
	北嶋 由紀	アイヌ文化
	宮地 鼓	環境学
	日野 貴文	植物学
	八幡 巴絵	アイヌ文化
【言語儀礼芸能グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に言語儀礼技能に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
映像・音声資料 民具資料（儀礼・芸能系）	中井 貴規	アイヌ文化、アイヌ語
	小林 美紀	アイヌ語
	深澤 美香	アイヌ語
	矢崎 春菜	アイヌ語
	竹内 隼人	アイヌ文化
	劉 高力	文化人類学
	谷地田 未緒	文化政策
【歴史社会グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に歴史社会に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
文書・絵図資料 現代資料一般 考古資料	霜村 紀子	美術史
	田村 将人	近現代史
	関口 由彦	近現代史
	鈴木 建治	考古学
	立石 信一	現代史
	マーク ジョン ウィンチェスター	アイヌ近現代史・歴史社会学
	是澤 櫻子	歴史、文化人類学（日本、ロシアの 先住民運動）

【文化財科学グループ】		
博物館機能強化のための研究 文化財科学に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
資料全般の保存環境	赤田 正倫	保存科学
	大江 克己	保存科学
	古田嶋 智子	保存科学、保存環境
【教育グループ】		
博物館機能強化のための研究 教育に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏名	専門分野
教育普及資料	奥山 英登	博物館教育
	笹木 一義	博物館学
	押野 朱美	アイヌ文化
	シン ウォンジ	学芸職
	カサド パルド ケラール	学芸職
	永石 理恵	学芸職
	両角 佑子	学芸職
	今野 彩	学芸職
【国際オフィス】		
博物館の多言語化及び国際交流に関する分野を専門とする		
主担当	氏名	専門分野
国際交流	谷地田 未緒	文化政策
多言語化	権 保慶	日韓比較文学・比較文化、翻訳論

II -02 委員会

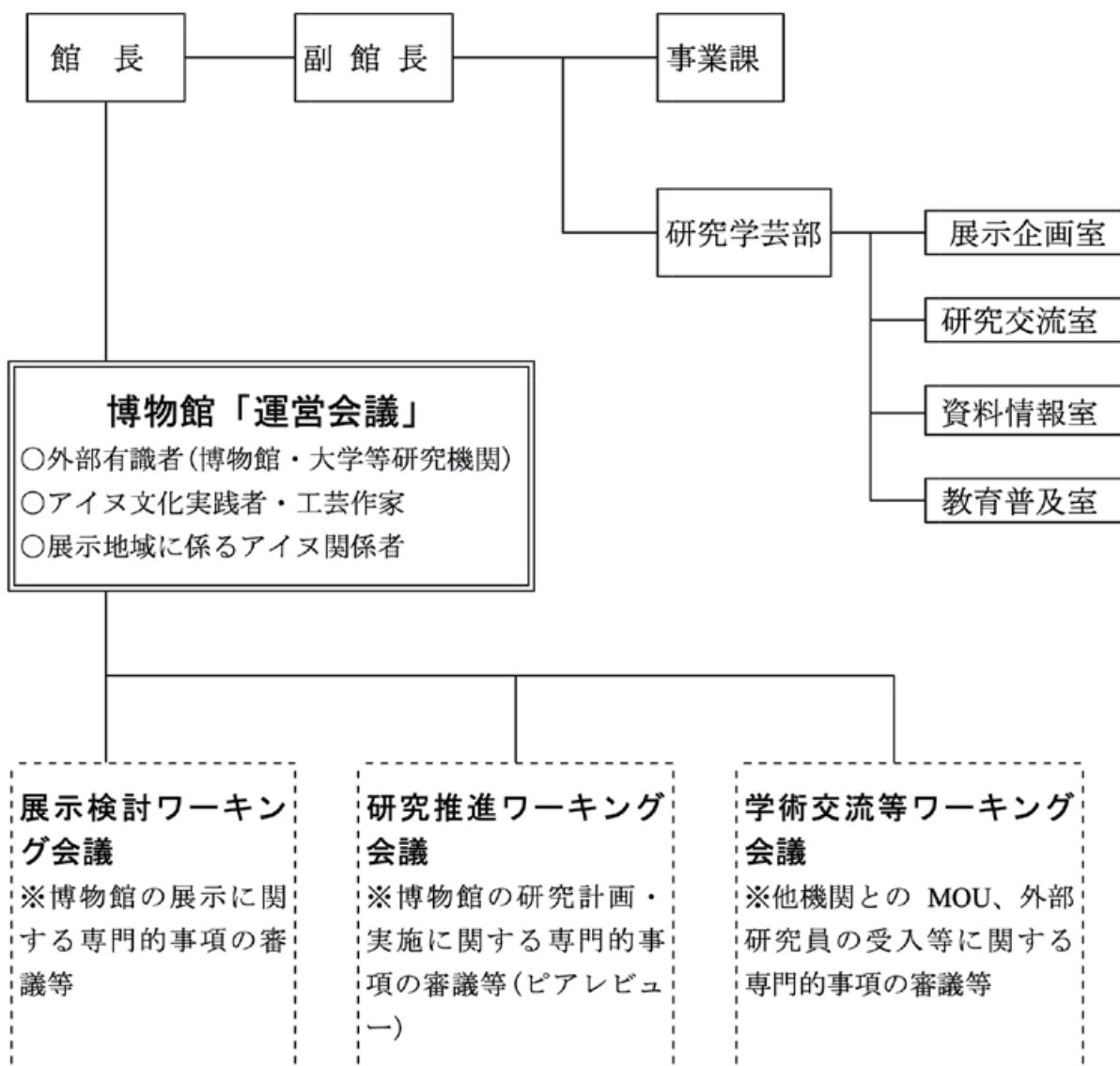
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議

国立アイヌ民族博物館では、「博物館の展示及び学術研究等に関する専門事項について、外部有識者及びアイヌ文化実践者等アイヌ関係者（以下「外部有識者等」という）の意見を聞くため」（公財ア事業第51号『国立アイヌ民族博物館運営会議設置要領』（2020年10月30日国立アイヌ民族博物館長裁定）第1条より）、運営会議を置いている。

なお、本運営会議は決定機関ではなく、諮問機関である。

1) 組織

当運営会議では、同要領第3条第4項に基づき、下にワーキング会議を設置している。それに必要な事項は運営会議の座長が別に定めるとあり、また、その構成員も座長が委嘱する。



国立アイヌ民族博物館運営会議組織図

2) 2020（令和2）年度運営会議構成員（五十音順）

氏 名	所 属・職
○秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事
秋山 純子	東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
宇梶 剛士	俳優
大川 勝	北海道アイヌ協会理事長
小川 正人	北海道博物館学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長
貝澤 守	工芸家 二風谷民芸組合代表理事
萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
川村 久恵	川村カ子トアイヌ記念館副館長
北原 次郎太 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
齋藤 玲子	国立民族学博物館人類文明誌研究部准教授
◎佐々木 利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授
品川 欣也	東京国立博物館学芸研究部調査研究科考古室長
田澤 守	樺太アイヌ協会会長
谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
中川 裕	千葉大学大学院人文公共学府教授
中村 吉雄	北海道アイヌ協会副理事長
本田 優子	札幌大学地域共創学群教授

◎：座長、○：副座長

3) 開催状況

2020（令和2）年度には以下の日程と議題で会議を開催した。

日 時

2021年1月18日（月）15:00～17:00

会 場

国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

議 題

1. 審議事項

1) 座長と座長代理の選出について

2) 運営会議の下に3つのワーキング会議（展示検討、研究推進、学術交流）を設置することについて

2. 報告事項

1) 2020（令和2）年度、2021（令和3）年度の基本展示の展示替え予定

2) 2020（令和2）年度、2021（令和3）年度の特別展示、テーマ展示等の予定

3) 基本展示に係るキャプション等の追加、修正

4) 2020（令和2）年度調査研究プロジェクト

5) 2020（令和2）年度における博物館・研究機関等との学術連携協定の締結

6) 2020（令和2）年度における博物館ネットワーク事業の進捗状況

3. その他

II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会

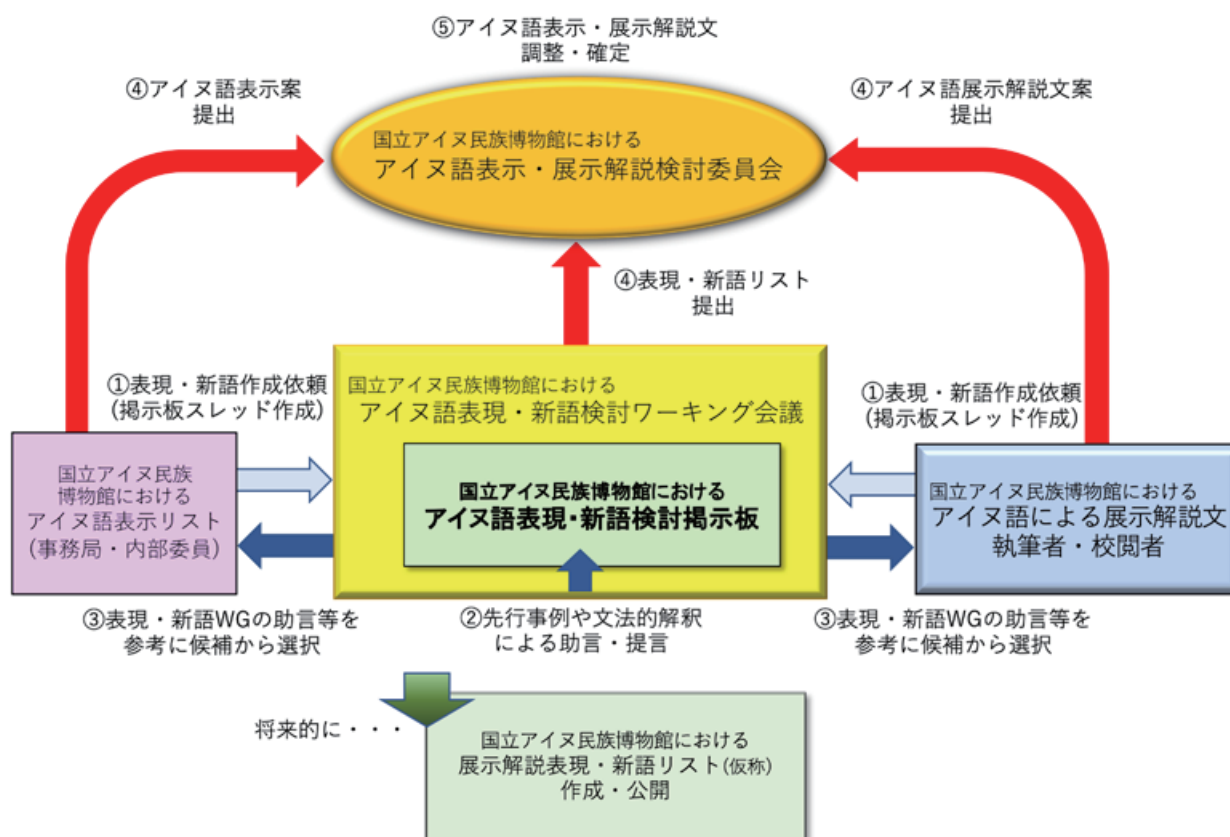
博物館におけるアイヌ語の表示と展示に用いるアイヌ語の表記の方法、方言の選定、新しい言葉を作成するに際してのガイドラインなどについて検討するために、2017（平成29）年度に当時の（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構が「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を設置した。また、この委員会の設置要綱第3条第3項に基づいて、博物館で使用する数多くの専門用語をアイヌ語で表現するための新しい言葉について議論するために、同財団は2018（平成30）年度に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」を設置した。

この委員会とワーキング会議は、当初は博物館内のアイヌ語の表示について検討することが主目的だった。しかし、ウポポイ（民族共生象徴空間）全体でのアイヌ語のあり方についての議論が必要になったために、事実上ウポポイにおけるアイヌ語表示についての議論をする委員会とワーキング会議となった。

この委員会とワーキング会議は2020（令和2）年度の博物館の正式な発足に伴い、設置母体が博物館に変更された（委員委嘱者が財団理事長から博物館長に変更）。

1) 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語検討の仕組み

アイヌ語表示・展示解説文作成イメージ（案）



2) 2020（令和2）年度アイヌ語表示・解説検討委員会構成員

氏 名	所 属・職
大須賀 るえ子	白老楽しく・やさしいアイヌ語教室講師
奥田 統己	札幌学院大学人文学部教授
○萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館 館長
北原 次郎太モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
切替 英雄	元北海学園大学工学部准教授
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課学校教育係主査
◎中川 裕	千葉大学文学部教授
日野 勉	内閣官房アイヌ総合政策室北海道分室企画官
本田 優子	札幌大学教授
村木 美幸	アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部副 本部長

◎：委員長、○：副委員長

3) 2020（令和2）年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議構成員

氏 名
奥田 統己
神崎 雅好
○北原 次郎太モコットウナシ
◎佐藤 知己
関根 健司
成田 英敏
八谷 麻衣
浜田 隆史

◎：座長、○：副座長

4) 2020（令和2）年度実施状況

2020（令和2）年度には以下の日程で委員会とワーキング会議を開催した。

◆第1回委員会

日時：2020年11月9日（月）15:00～17:00

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステム併用）

議事：

1. 開 会
2. 委員長・副委員長の選出
3. 議 事
 - (1) アイヌ語表示・展示解説の現在の状況について
 - (2) テーマ展の開催について
 - (3) アイヌ語解説文や表示のデータベース化について
 - (4) 今後の予定について
 - (5) その他
4. 閉 会

◆第2回委員会

日時：2021年3月15日（月）10:00～12:00

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステム併用）

議事：

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 第1回会議議事録の承認
 - (2) 来年度の計画について
 - (3) アイヌ語表示・展示解説について
 - (4) その他
3. 閉 会

◆第1回ワーキング会議

日時：2021年2月1日（月）13:30～15:30

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステム併用）

議事：

1. 開 会
2. 座長・副座長の選出
3. 議 事
 - (1) アイヌ語表示・展示解説の現在の状況について
 - (2) アイヌ語表現・新語の検討
 - (3) その他
4. 閉 会

III 施設

III -01 施設概要

III -01-01 整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

III -01-02 施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約 8,600m²（1階：3,500 m²、2階：4,800 m²、3階：300 m²）

規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

設計：久米設計

建築：竹中・田中特定建設企業体



国立アイヌ民族博物館 概要

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点



施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）
 延べ面積：約8,600㎡
 規模：地上3階
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており，本イメージ図には含まれていない。

P 1

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

III -02 建物の整備の基本方針と計画内容

（文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より）

基本方針① ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

- 自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和
 - ・ポロト湖畔周囲に広がるすり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
 - ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保
- 国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出
 - ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置


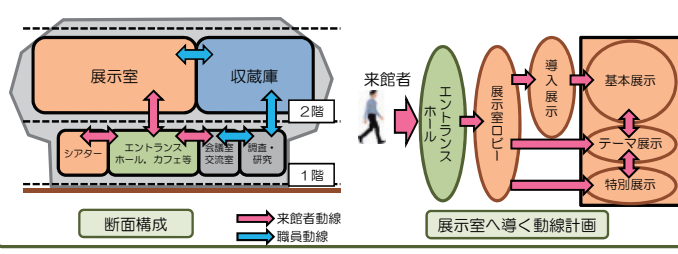
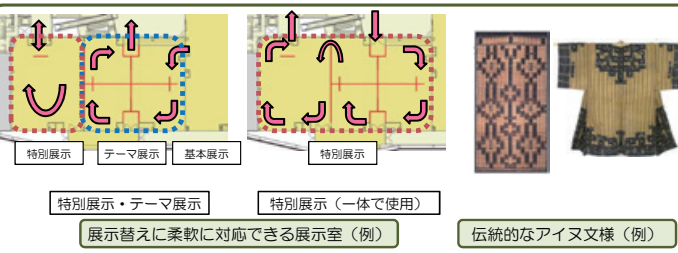
基本方針② アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

- 来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画
 - ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
 - ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意
- 確実な資料保存や研究に必要な空間の確保
 - ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意

基本方針③ 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

- 展示替えに対応できる展示室
 - ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応
- 多言語対応、アイヌ文様の活用
 - ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
 - ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現

国立アイヌ民族博物館 建物の整備の基本方針と計画内容

<p>【基本方針①】 ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和</p> <p>○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状 ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保 <p>○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置 	 <p style="text-align: center;">ポロト湖周辺の自然との調和</p> <p style="text-align: center;">ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー</p>
<p>【基本方針②】 アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点</p> <p>○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画 ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意 <p>○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意 	 <p style="text-align: center;">断面構成</p> <p style="text-align: center;">展示室へ導く動線計画</p>
<p>【基本方針③】 国内外の多様な人々に向けた アイヌの歴史・文化等の発信拠点</p> <p>○展示替えに対応できる展示室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応 <p>○多言語対応、アイヌ文様の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画 ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現 	 <p style="text-align: center;">展示替えに柔軟に対応できる展示室（例）</p> <p style="text-align: center;">伝統的なアイヌ文様（例）</p>

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

参考：博物館の建物を飾るアイヌの伝統的な文様について

博物館内には要所要所にアイヌ文様を図案化した模様を入れている。

例えば、博物館のメインエントランスの自動ドアの周囲には、アイヌのゴザ文様を図案化した模様を金属板で表現し、自動ドアのガラス面には衣服の文様にヒントを得た模様を入れて、この博物館がアイヌ文化を展示する博物館であることを強調している。また、透明なガラスに貼り付ける衝突防止用シートにも、アイヌ文様を図案化した模様を使用している。

1階ロビーからエレベータールームに向かう入り口の自動ドアにはアイヌの衣服に使われる切り伏せと刺繍の文様を施し、同じ模様をインフォメーション後の壁面に投影している。また、1階と2階のトイレの洗面台の鏡にもアイヌ文様を図案化した模様を入れた。

これらの文様、模様はいずれも、文化伝承者でアイヌの服飾や刺繍を数多く手がけてきた津田命子氏がデザインしたものである。

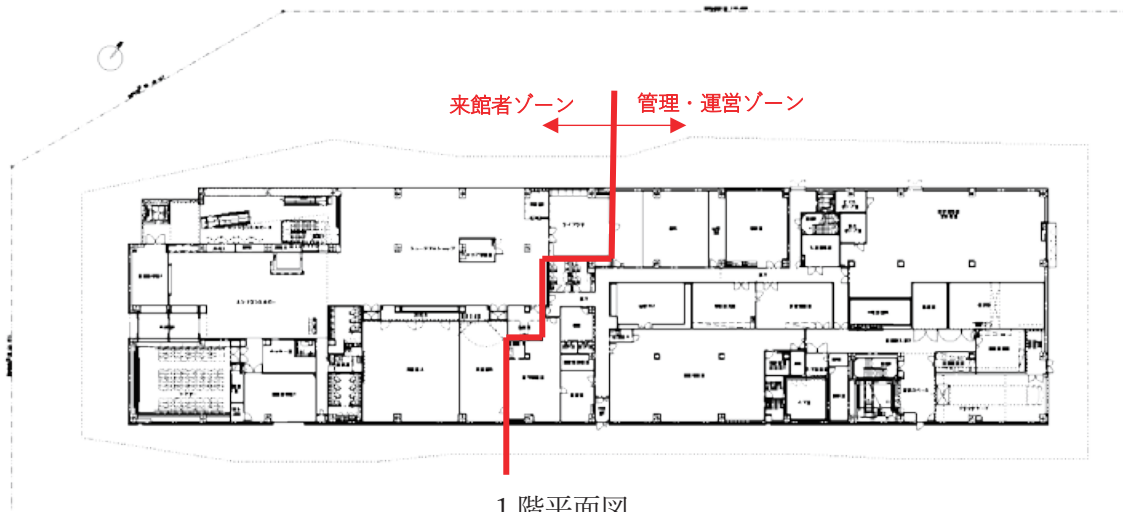


正面エントランスを飾るゴザ文様を図案化した模様

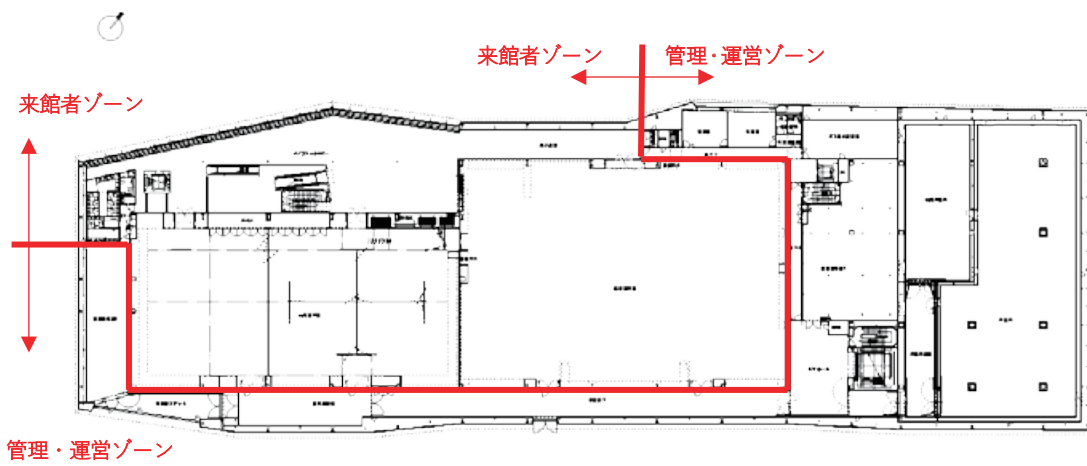


1階ロビーからエレベータールームへ続くドアのアイヌ文様

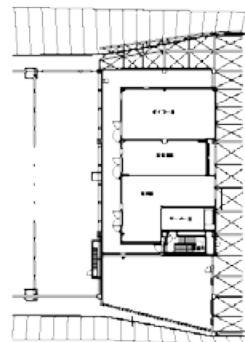
III -03 建物の平面図



1階平面図

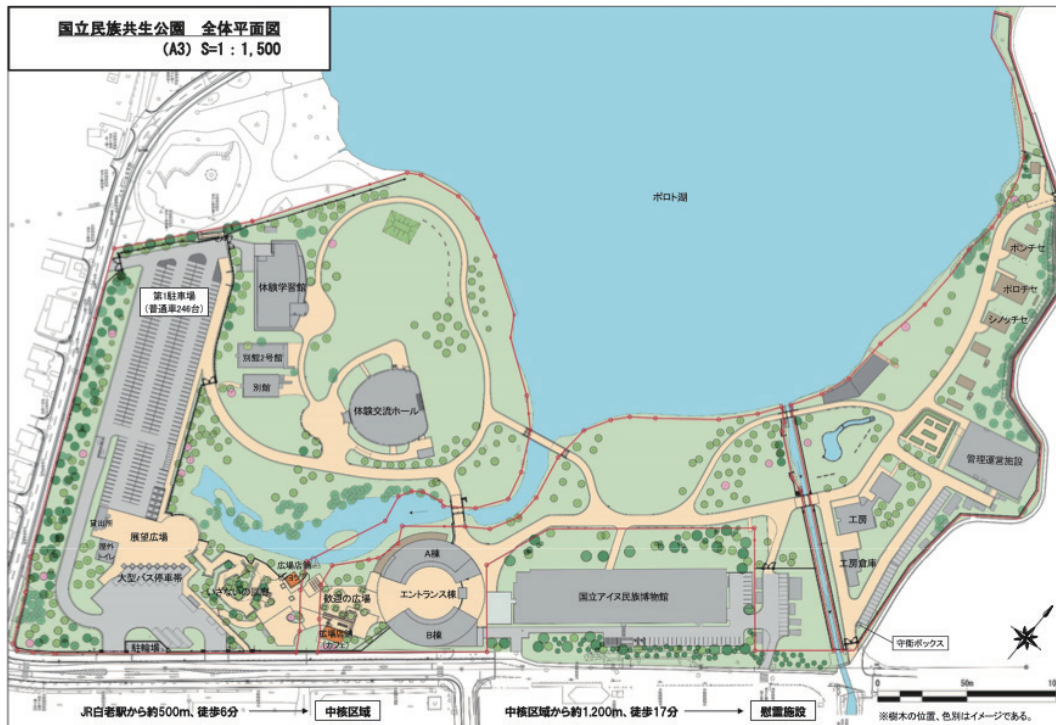


2階平面図



3階平面図

参考図 国立民族共生公園 全体平面図



III -04 1 階の施設

1階の施設は一般来館者を迎える「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

風除室、エントランスロビー、シアター、交流室、ライブラリー、ミュージアムショップ、ロッカー室、救護室、トイレ。

○ 管理・運営ゾーンの施設

管理事務室、警備員室、休憩室、調査研究室、物品庫1、書庫、物品庫2、研修室、修復復元室、分析実験室、CT室、資料一時保管庫、燻蒸室、撮影室、梱包荷解室、トラックヤード、資料整備室、機械室。

ここではそのうち主立った施設を紹介する。

III -04-01 1 階来館者ゾーンの施設

アバサム（エントランスロビー）

大勢の来館者を迎えるため、風除室を2重とすることで館内空気環境の安定と防虫対策を行った。また、2階の展示室に向かうエスカレーター等の交通部分を区画することで、さらなる防虫対策を行った。（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020年、p.76）



建物完成直後のメインエントランス（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

正面エントランスを入ると総合案内がお客様を迎え、壁面にはアイヌ語をはじめとした多言語による館内案内が映像で表示される。ロッカーやデジタルサイネージなどの設備も備えられている。2階の展示室に向かう途中には、6面マルチモニターによる「アイヌ文化ゆかりの地ガイド」があり、アイヌ民族のこれまでの歩みや、現代のアイヌ文化に触れられる場所を紹介する。また、交流室前には大画面タッチパネルによる地域情報検索「調べてみよう！アイヌ文化と北海道」（2020年度には新型コロナウイルス感染症の流行により休止していた）も設置されている。



ミュージアムショップから6面マルチ画面方面への眺め

イノカスカラ トウンブ（シアター）

1階にはアイヌ文化を映像でわかりやすく紹介するシアターがある。

座席数96席、入場無料。アイヌ文化を大画面映像でわかりやすく紹介する。現在用意しているプログラムは2本で、どちらも上映時間は約20分である。映像プログラム「アイヌの歴史と文化」では、人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化についてわかりやすく解説する。また、映像プログラム「世界が目にしたアイヌの技」では、18世紀以降、世界から高い注目を集め、ヨーロッパとアメリカの博物館に約1万点收藏されているアイヌ民族資料についてご紹介する。



建物完成直後のシアター（両写真とも提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ウウェネウサラ トウンプ (交流室)

館主催の教育普及事業や修学旅行での説明会（「はじめてのアイヌ博」）など来館者対応に利用する他、館の会議や研究集会、研修、ウポポイ全体での集会や会議など多目的に利用するためのスペース。スクリーン、プロジェクター、ホワイトボード、演台、マイク・スピーカーシステム、ビデオカメラなどプレゼンや会議に必要な装置を備える。

間仕切りによってAとBの区画に区切ることができる。

広さ：約 274 m²（交流室A：約 186 m²、交流室B：約 88 m²）

最大収容人数 A・B合わせて 150 名



交流室

カンピソシヌカラ トウンプ (ライブラリ)

アイヌに関する書籍を閲覧できるライブラリは、立ち寄りやすいようにガラスの間仕切りとし、室内の壁面には CLT で制作した棚を配置した（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020年、p.76）。開館後は開架式図書室として、新型コロナウイルス感染症対策のため入室者数を制限しながら運用している。



建物完成直後のライブラリ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



ライブラリ内部

イコロマケンル イホク ウシ (ミュージアムショップ)

1階北側の湖に面した空間にミュージアムショップが設置されている。ここでは木彫、刺繍などのアイヌ工芸品の他、アイヌ文様をデザイン化した商品、アイヌ料理の缶詰・レトルト食品、アイヌの歴史と文化についての書籍などを販売している。また、コーヒー他の飲料も販売され、湖に面した席で軽い飲食も可能。



ミュージアムショップ

チエトウン スウォフ オマトウンブ (ロッカー室)

博物館内を快適に観覧できるよう、荷物を一時的に保管するコインロッカーを180基設置した(解錠時にコインは返還)。



ロッカー室

イカオイキ トウンブ（救護室）

来館者の急な体調不良などに備え、来館者ゾーン内に救護室を設けた。そこには2基のベッドと洗面台を備えており、体調不良の来館者が一時的に休憩できるようにしている。

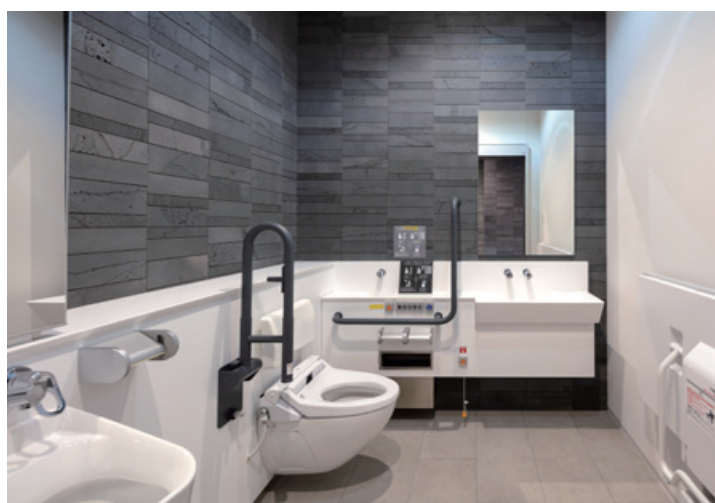


救護室

アシシル・セブ アシシル （トイレ・多目的トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。

また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



多目的トイレ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



手洗い場の鏡のアイヌ文様（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III -04-02 1 階管理・運営ゾーンの施設

キャンパスイェ トウンブ（調査研究室）

研究学芸部の研究員、学芸員が研究業務に従事する部屋である。広大な一間だが、中をブースで仕切り、研究に集中できる環境を整えている。打合せ用のブースとテーブル、研究員、学芸員がすぐに必要とする図書、資料等を収納する書棚、コピー・印刷機なども設置されている。

調査研究室に隣接して映像音響室が3室並び、また、各課、室の必要な書類等を収納するための物品庫も設けられている。



建物完成直後の調査研究室（写真提供：北海道開発局営繕部）

ヤイパカシス トウンブ（研修室）

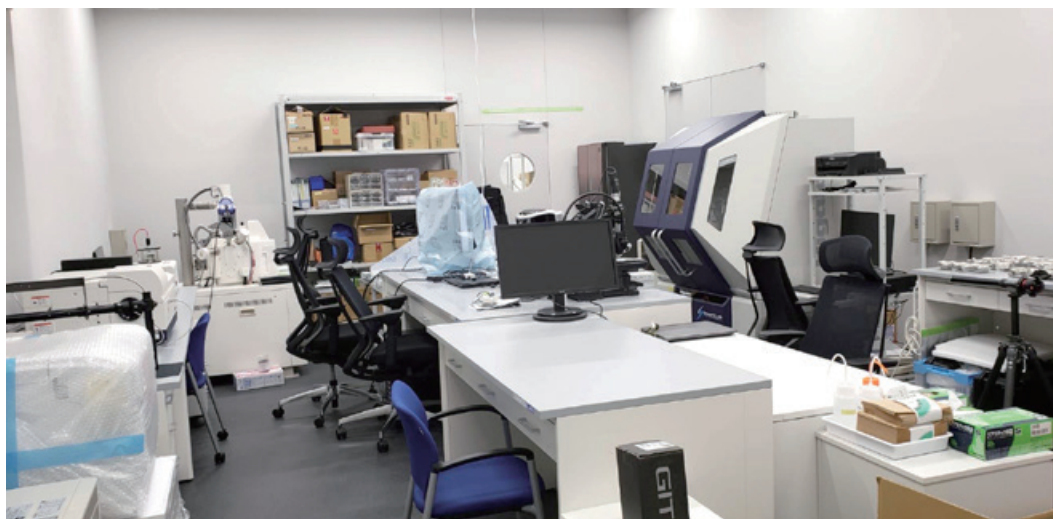
研修室は会議、打合せ、研究会、研修、資料熟覧など多目的に使える部屋である。食文化に関する研修もできるように水道、流し台、給湯設備も設けられている。また、ホワイトボードの他、モニター、マイクフォン、スピーカーなどペーパーレスの会議やリモート会議、各種プレゼンにも対応できる設備も備えた。普段は机をロの字型に並べた会議形式の調度配置をしているが、用途に応じて机、椅子の並びは自由に変更できる。



研修室（左：窓方面、右：出入口方面）

イコロ ウワンテ トウンブ（分析調査室）

当博物館では収蔵資料の科学分析も調査研究の一環として重視しており、またその成果を展示に活用している。当館で使用する分析機器には、蛍光X線分析装置、携帯型蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査型電子顕微鏡、X線CT装置、レントゲン撮影装置、デジタルマイクロスコープ、三次元蛍光分光分析装置、ハイパースペクトルカメラ、キセノン型耐候試験機器、純水製造装置、恒温恒湿機・恒温機、真空凍結乾燥機がある。



分析調査室

蛍光X線分析装置



資料表面の元素分析を行う装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査や絵画資料に利用。鉄(Fe)や銅(Cu)の様に、資料を構成する元素分析から、利用された材料の調査を行う。

X線回折装置



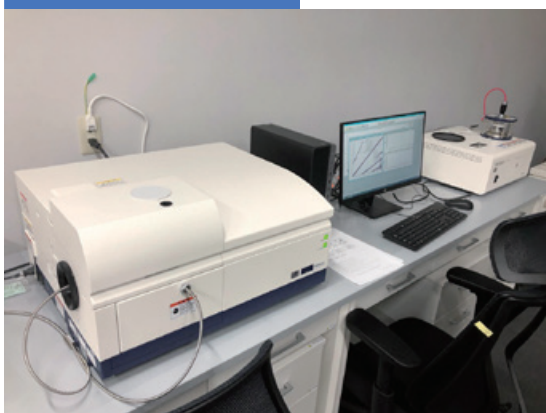
資料表面の化合物を調べる装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査に利用。例えば、鉄を調査した場合、酸化鉄(Fe₃O₄)か塩化鉄(FeCl₂)など、化合物の情報が得られる。この情報を基に、劣化具合の判断や修復方法の検討を行う。

走査電子顕微鏡



資料表面を数万倍まで拡大し観察する装置。拡大面の元素分析も可能。アイヌ民族資料の脱落片（繊維片、漆片、金属片等）の調査から、素材の加工法等を観察する。

三次元蛍光分光分析



資料表面の光学情報を捉える装置。アイヌ民族資料中で、特に染色製品（衣類等）の調査に利用。退色や繊維の劣化の様子などを調査し、劣化診断やコンディション向上に関する検討を行う。

分析調査室・CT室の利用について

★導入した分析装置一覧

・内部構造調査装置

調達機器
X線CT装置
レントゲン装置

・材質調査装置

調達機器
蛍光X線分析装置
携帯型蛍光X線分析装置
X線回折装置
三次元蛍光分光分析装置
ハイパースペクトルカメラ

・表面等観察装置

調達機器
走査電子顕微鏡
電動型ズーム顕微鏡、実体顕微鏡
デジタルマイクロスコープ
3Dスキャナ（広域用・高精細用）
3Dプリンタ

・処置装置類

調達機器
恒温恒湿装置
恒温装置
真空凍結乾燥機
生物処理装置（二酸化炭素殺虫処理装置）
キセノン型耐候試験機

CT トランプ（CT室）

当館には最新の X 線断層撮影装置（CT）を備えた分析室がある。X 線の漏洩を防ぐため、壁、天井、床は鉛張りとなっている。



X 線断層撮影装置（CT）

X 線断層撮影装置（CT）の概要

資料内部を三次元的に観察できる装置。アイヌ民族資料の中でも立体物の調査に利用。非破壊で安全に資料構造の把握や内面加工の観察ができる。（2020 年度 /215 件調査）

機器寸法 左右幅：約 3760mm 総高：約 2900mm 奥行：約 980mm

撮影範囲 高さ：1400mm 程度 直径：600mm 程度

- 特 徴
- ・アイヌ民族資料に合わせ装置性能を設計。
 - ・金属製品等の資料を調査する高出力管球と、木製品等の細部を調査する管球を有する。（一台で2本の管球を有する文化財用 CT 装置は国内唯一）
 - ・画像検出器は、最新のフラットパネルを使用。

イバカレ トランプ（燻蒸室）

博物館に搬入した直後の展示・収蔵資料には、文化財を劣化させる害虫が付着していたり内蔵していたりする場合がある。この部屋は、害虫や蛹、卵等の生物処理（二酸化炭素処理）を行うための部屋である。害虫の付着が見られない場合の経過観察でも使用する。ただし、カビの除去はこの装置ではできないため、アウトソーシングしている。



二酸化炭素処理装置

イノカウトランプ（撮影室）

展示図録や調査研究、資料管理等に使用するための写真を撮影する部屋。大型照明装置、資料の背景となるスクリーン、資料を置く机などが装備されている。また天井近くにはキャットウォークが設置されており、そこから床面に向かって真下に撮影することができる。



撮影室

III -05 2階の施設

2階の施設も1階と同様に一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

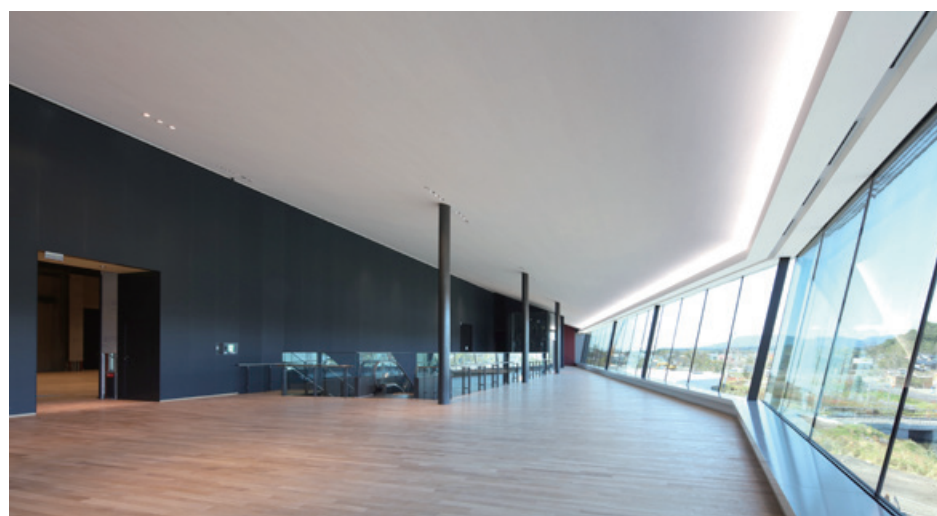
パノラミックロビー、基本展示室（導入展示、プラザ展示、6テーマの展示、探究展示テンパテンパ）、特別展示室、トイレ、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

展示準備室、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、館長室、応接室、機械室

III -05-01 来館者ゾーンの施設

インカラ ウシ（パノラミックロビー）



建物完成直後のパノラミックロビー（上：冬景色、下：基本展示室入口からの眺め）
（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

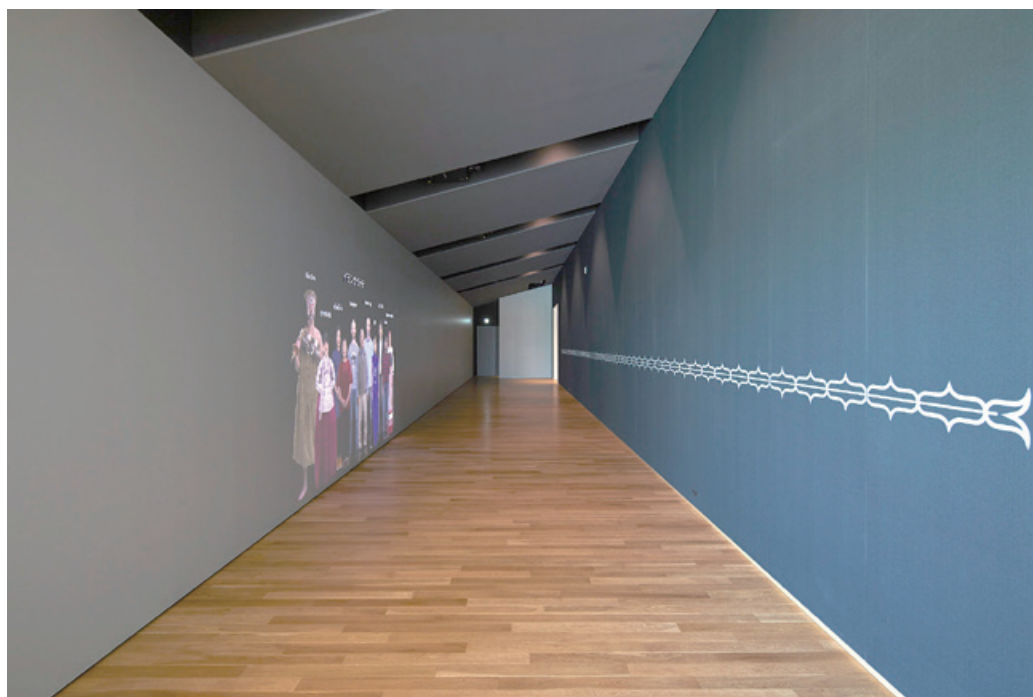
1階のエントランスロビーからエスカレーターで2階に上がると、まず目に飛び込むのはポロト湖の眺望とウポポイの全景である。それらを見渡すことができるこの大空間をパノラミックロビーと呼ぶことにしている。ここでは四季を通じてポロトの様々な姿を楽しむことができる。

イコロトウンプ（基本展示室）

約1250㎡ある基本展示室に設置されている基本展示は導入展示、プラザ展示、アイヌの視点で描く6つのテーマ（ことば、世界、暮らし、歴史、しごと、交流）、探究展示テンバテンパから構成されている。

イアシケウク（導入展示）

ポロト湖を望むパノラミックロビーを抜けると、導入展示が始まる。そこでは、明かりを落としたトンネル状の空間にアイヌ民族を含む世界の諸民族が自分たちのことばであいさつする。その中からアイヌの人々が抜け出して、自分たちの活動を紹介します。世界の民族と出会い、そのひとつの民族であるアイヌの人々が来館者を展示室へ誘う。



導入展示（上：展示場入り口方向、下：待機画面）

アエキルシ（プラザ展示）

この博物館の展示の魅力のひとつは、プラザ方式という中心から周辺へと自由に展示室を回れる構成である。基本展示室の中央に設置したプラザにはアイヌ文化の粋を集めた、芸術品としても高いレベルにある作品を展示して、それを見るだけでもアイヌ文化の概略とすぐれた芸術性を理解できるようにしている。そして、より詳しく知りたい人は周辺の個別の展示を見てもらって理解を深めてもらう構成となっている。



プラザ展示全景



プラザ展示（イナウ）



プラザ展示（女性の装い）

イタク（私たちのことば）

アイヌ語や口承文芸、地名やアイヌ語復興のための現在の取り組みを紹介する。資料の展示だけではなく、アイヌ語に親しめる空間にもなっている。いろいろ端に座っているような気分でアイヌ語の語りを聞くことができるコーナーの他、アイヌ語の仕組みや発音を、ゲームを通して知ることができるコンテンツや、地名や会話についての映像もある。



私たちのことば全景



私たちのことば（囲炉裏）

イノミ（私たちの世界）

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化を紹介する展示。ありとあらゆるものにラマツ（靈魂）が宿るという世界観、その中で特に人間（アイヌ）と深い関わりを持つカムイという存在などアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて解説する。樺太のクマの霊送り儀礼でクマを繋ぐ高さ6m余りの木の杭は当館で最大の展示物である。その周囲ではさまざまな儀礼に関わる諸道具を、使い方を含めて紹介する。



私たちの世界全景



私たちの世界（樺太アイヌのクマつなぎ杭）

ウレシバ（私たちの暮らし）

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、暮らしの文化について、道具や映像を通じて紹介する。衣服については、樹皮衣に使うオヒョウ樹皮の皮剥ぎから糸づくり、機織りまでを映像と織機類の実物で紹介する他、江戸時代以降に導入された木綿素材の衣服と刺繍についても展示する。また様々な食材と料理、伝統的な住居の構造、人の一生、伝統芸能、さらには伝承に携わる人々の取り組みなども映像や実物資料を交えて紹介する。



私たちの暮らし全景



私たちの暮らし（d.1 今に受け継ぐ衣服と心、d.2 受け継がれる食文化）



私たちの暮らし (d.3 住まう)

ウパシクマ（私たちの歴史）

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げる。当館では北海道に人が移住してきた約3万年前から当館が開館する2020年までをアイヌ民族の歴史として、その視点で紹介する。上部壁面に事柄とそれに呼応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介するとともに、展示ケースでは各時代をよく表す考古遺物や文書類、さらには実物資料を展示する。



私たちの歴史全景



私たちの歴史 (e.1 遺跡から見た私たちの歴史)



私たちの歴史 (e.3 私たちの生活が大きく変わる)

ネッキ（私たちのしごと）

アイヌ民族が過去から現在にわたって携わってきたしごとを取り上げる。前半は、狩猟・漁撈・農耕・採集など「伝統的」とされてきたしごとで使用された道具やその仕組みを紹介する。一年を通して行うしごとを検索するタッチパネルもある。後半では、明治以降に従事してきたしごとや工芸品を取り上げる。使う道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の活動などを伝えるとともに、アイヌ民族が来館者と同じ時代を生きる人々であることを理解してもらおう。



私たちのしごと全景



私たちのしごと (f.1 先祖のしごと)



私たちの交流 (g.1 生活圏と海を越える交流)



私たちの交流 (g.2 外からみたアイヌ文化、g.3 伝統を魅せる)

イケレウシ「テンパテンパ」（探究展示 テンパテンパ）

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。ジオラマ・住居模型・タマサイ（首飾）作りキット、サケとシカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる。来館者には探究展示とまわりの6テーマ展示を歩き来しながら、アイヌ文化への理解をさらに深めてもらうことをねらっている。（※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語。）



探究展示 テンパテンパ t.1



探究展示 テンパテンパ t.2



探究展示 テンパテンパ t.3

シサク イコロ トウンプ（特別展示室）

約 1000 m²ある特別展示室は、規模の異なる特別展示とテーマ展示を実施するために、可動壁によって複数の部屋に仕切ることができる。2020 年度には開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」と第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロー資料に見る素材と技ー」を実施した。



特別展示室



特別展示室

アシナル（トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を圖案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



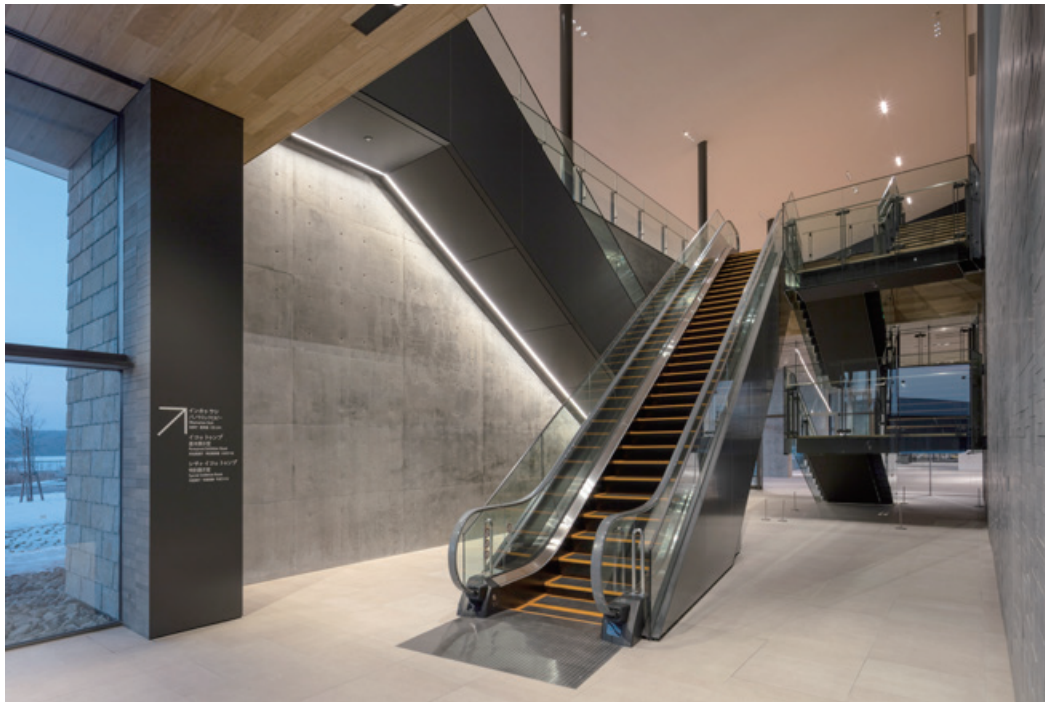
2階トイレ洗面台（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ニカラ、トゥシエリキンペ、シモイエニカラ（階段、エレベーター、エスカレーター）

1階ロビーから展示室へと向かう扉の向こうに広がる吹き抜けに、エレベーター、エスカレーター、階段が設置され、1階と2階をつないでいる。エレベーターには内部に手すりが設けられ、日英のアナウンスが流れ、点字表示がなされている。



階段（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エスカレーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エレベーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III -05-02 管理・運営ゾーンの施設

イコロプ（収蔵庫）

当博物館の収蔵庫は、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫からなる。

収蔵品は、着物、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、漆器類などのように多種多様である。そうした資料たちは、民具等の立体の資料から絵画等の平面の資料というように、多岐にわたる形状を有している。そこで、効率よく安全に収蔵して保管するために特注寸法の収蔵棚を設置した。

また、東北地方太平洋沖地震や北海道胆振東部地震等の災害例を踏まえ、収蔵棚の本体構造は地震等による縦横の揺れが発生した場合でも容易に倒れないものとなっている。

収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫ともに、24時間空調で温度20～22℃、湿度55%を維持することを目標としている。ただし、特別収蔵庫は漆器類を保管しているため、55%よりも若干高めに設定している。

将来的な収蔵資料の増加に備え、メザニン増設も可能な作りになっている。

イコロプセム（収蔵庫前室）

一般収蔵庫や特別収蔵庫が直接バックヤードに面しないための緩衝の役割を果たすとともに、計測器具、薄葉紙、マット等を収納しておくための部屋。資料情報の入力作業や簡易な資料調査も行うことが可能。



収蔵庫前室

イコロプ（一般収蔵庫）

衣類、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、舟といった大型資料を収蔵している。



一般収蔵庫全景（右側に舟を収納する棚）



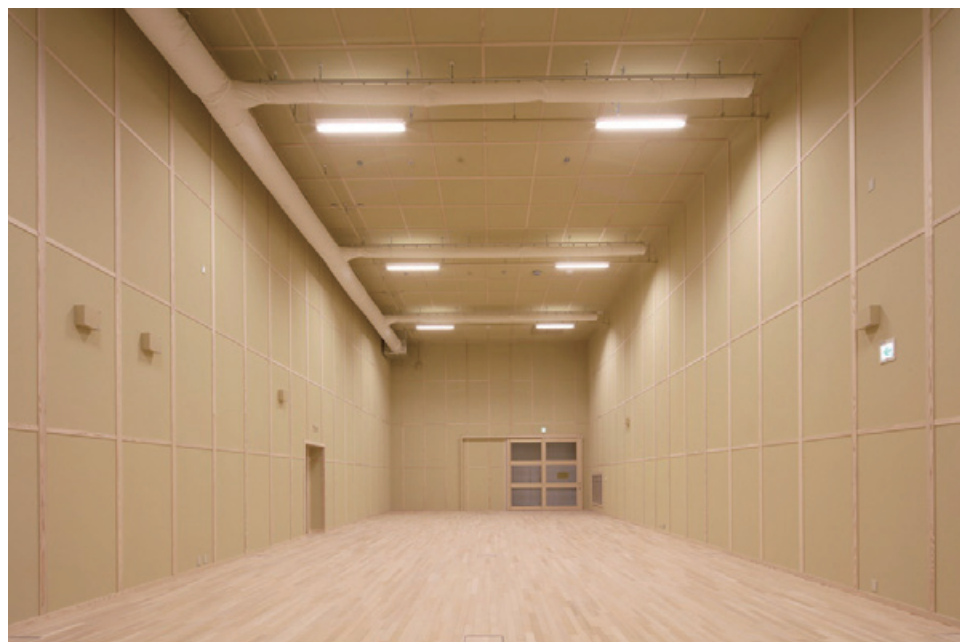
イナウのような民具を立てて収納するための移動集密棚



棚上部には、資料落下防止対策として引き戸を備えている

シサク イコロ プ (特別収蔵庫)

素材により最適な温湿度条件が異なるため、特別収蔵庫にはシントコやトゥキといった漆器類を収蔵している。



特別収蔵庫 (棚設置前、写真提供：久米設計)



特別収蔵庫全景

サパネクトゥンプ（館長室）

館長の執務用のデスクと椅子、書類棚、給湯施設、少人数での打合せのためのテーブルと椅子が設置されている。ここでは4人までの打合せが可能。



館長室

ウエカブ トウンブ (応接室)

内外の賓客等を迎え入れることが可能な応接室。テーブル2脚と椅子8脚が設置され、最大8人での会合が可能。専用のトイレも完備されている。



応接室



応接室

IV 2020（令和2）年度事業

IV-01 2020（令和2）年度主要事項

2020年

3月31日

文化庁企画調整課国立アイヌ民族博物館設立準備室閉室

4月1日

公益財団法人アイヌ民族文化財団が運営する国立アイヌ民族博物館が正式に発足

4月11日

堀井学衆議院議員、神部典臣北海道議会議員視察

4月24日

民族共生象徴空間開業予定日（新型コロナウイルス感染蔓延のために開園記念式典を5月23日、開業を5月29日に順延）

5月8日

内閣官房、国土交通省、文化庁が5月23日の開園記念式典、5月29日の開業をいずれも中止すると発表

5月25日

ウポポイ職員による開業リハーサル

5月29日

民族共生象徴空間開業予定日（新型コロナウイルス感染蔓延のために開園記念式典及び開業を順延）

6月9日～14日

白老町民内覧会

6月27日

鈴木直道北海道知事視察

7月4日

北海道観光セミナー及び内覧会（赤羽一嘉国土交通大臣、門博文国土交通大臣政務官、鈴木直道北海道知事視察列席）

7月11日

民族共生象徴空間開業式典挙行 菅義偉官房長官・萩生田光一文部科学大臣・青木一彦国土交通省副大臣列席

7月12日

民族共生象徴空間開業（国立アイヌ民族博物館開館、ウェブサイトでの事前入場整理券予約制を導入、1時間当りの展示場観覧人数を100人に制限する）

開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」開幕（～11

月8日)

第1回エントランスロビー展示「国立アイヌ民族博物館2020までの軌跡」公開

7月19日

上野通子文部科学副大臣視察

7月30日

門博文国土交通大臣政務官視察

8月23日

北村誠吾内閣府特命担当大臣視察

8月27日

青山周平文部科学大臣政務官視察

9月3日

台北駐日経済文化代表処札幌分処 周学佑 (Chou Shyue-yow) 処長来館

9月9日

ドイツ連邦共和国大使館 イナ・レーペル (Ina Lepel) 大使来館

9月11日

オーストラリア大使館 リチャード・コート (Richard Court AC) 大使来館

石川大我参議院議員視察

10月3日

1時間当りの展示場入場者数を200人に緩和

10月16日

大西英男国土交通副大臣視察

10月22日

武田良太総務大臣視察

10月27日

在札幌アメリカ合衆国総領事館 アンドリュー・リー (Andrew Lee) 総領事来館

11月13日

ヨルダン・ハシェミット王国大使館 リーナ・アンナーブ (Lina Annab) 大使来館

北大アイヌ・先住民研究センターと国立アイヌ民族博物館の学術連携・協力に関する協定調印式挙

11月25日

オランダ王国大使館文化担当官来館

12月1日

第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロ ―資料に見る素材と技―」開幕 (第1期:12月1日~2021年1月24日、第2期:2月2日~3月21日、第3期:3月30日~5月23日)

12月8日

小林茂樹国土交通大臣政務官視察

秋本真利衆議院議員視察

12月11日

徳永エリ参議院議員視察

2021年

1月13日

開業半年の記者会見

1月18日

第1回博物館運営会議開催

1月30日

横山信一参議院議員視察

3月13日

北大アイヌ・先住民研究センターと国立アイヌ民族博物館の学術連携・協力に関する協定に基づくキックオフシンポジウム「アイヌ文化の教育と人材育成」を開催

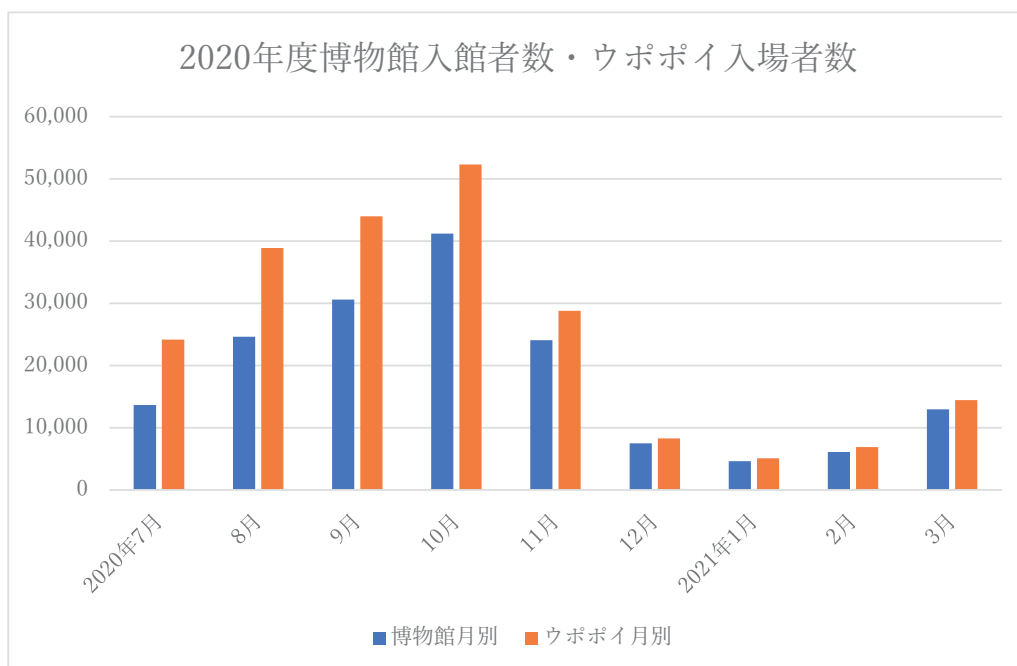
IV-02 入館者数（月別）

2020年

	博物館月別	博物館累計	ウポポイ月別	ウポポイ累計
7月	13,657	13,657	24,144	24,144
8月	24,627	38,284	38,887	63,031
9月	30,596	68,880	43,988	107,019
10月	41,204	110,084	52,295	159,314
11月	24,086	134,170	28,785	188,099
12月	7,506	141,676	8,290	196,389

2021年

1月	4,609	146,285	5,086	201,475
2月	6,097	152,382	6,877	208,352
3月	12,969	165,351	14,442	222,794



IV -03 展示

IV -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催

1) 開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」の開催

国立アイヌ民族博物館開館記念特別展 サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～を下記のとおり実施した。なお、会期については新型コロナウイルス感染拡大の影響により開館日が延期になったことを受け、本特別展示についても当初の会期を変更して実施した。

後援者名	北海道、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞札幌支社、読売新聞北海道支社、苫小牧民報社、室蘭民報社、NHK北海道、北海道放送、STV 札幌テレビ放送、北海道テレビ、北海道文化放送、テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G'エフエム北海道、エフエム・ノースウェーブ
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 2020年7月12日～2020年11月8日
入場者数	118,707名
入場料金	本特別展については無料(ただし、ウポポイ(民族共生象徴空間)入園に際しては入園料を徴収)
事業内容	出品協力及び展示数： 浦河町立郷土博物館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、個人、文化庁、公益財団法人アイヌ民族文化財団 約160点 関連事業：開催要項に記載の「関連事業」については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、開催中止とした。
展示替え	9月8日(火)より一部展示替えを行った。前期のみの展示12点、後期のみの展示13点
事業成果	アイヌ民族を取り巻く社会環境は、近代以降大きく変化し、文化継承の形は多様化した。今回の特別展では、継承されてきた技術や感性を現在活躍中の作家や担い手を中心に、個人や団体に焦点を当て紹介した。伝統的な作品ばかりではなく、伝統を踏まえた新しい作品や活動も展示し、アイヌ文化に関する正しい認識と理解を促進に大いに寄与できた。
担当者	藪中・北嶋・八幡・矢崎・押野・竹内



開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」



開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」



開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」

IV -03-02 テーマ展示及びエントランスロビー展示の企画立案・計画策定、開催

1) テーマ展示

第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロー資料に見る素材と技―」と第1回エントランスロビー展示「国立アイヌ民族博物館2020」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の館との人的往来、物的往来が阻害されたため、当館所蔵資料を中心にテーマ展示及びエントランスロビー展示を実施した。

展覧会名称	第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロー資料にみる素材と技―」
協 力	エクスロン・インターナショナル株式会社
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 特別展示室 [1期] 2020年12月1日（火）から2021年1月24日（日）まで、55日間 [2期] 2021年2月2日（火）から3月21日（日）まで、48日間 [3期] 2021年3月30日（火）から5月23日（日）まで、55日間
入場料金	無料(ただし、ウポポイ(民族共生象徴空間)入園に際しては入園料を徴収)
事業内容	出品展示数：約80点（当館所蔵資料）
	関連事業： ホリデーイベント もっと知りたい！「収蔵資料展イコロ」(各回30分、全6回) 【開催日】2021年2月27日、3月13日、3月20日、4月10日、4月24日、5月8日
展示替え	1期、2期、3期において一部展示替えを行った。
事業成果	国立アイヌ民族博物館では、旧アイヌ民族博物館から受け継いだものを合わせ、1万点を超える資料を収蔵している。本展示では、開館に向けて収集した新着資料を6つのテーマにわけて紹介した。資料に用いられた「素材と技」に注目した本展で、新たに導入した科学分析装置による調査成果とアイヌ民族の技を紹介した。
担 当 者	霜村・大江・北嶋・八幡・中井・矢崎・竹内・古田嶋



第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロー資料に見る素材と技―」



第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロー資料に見る素材と技―」



第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロ—資料に見る素材と技—」

2) エントランスロビー展示

展覧会名称	第1回エントランスロビー展示：「国立アイヌ民族博物館2020」
実施会場 実施期間	国立アイヌ民族博物館 1F 交流室前ケース 2020年7月12日（日）公開
入場料金	無料（ただし、ウポポイ（民族共生象徴空間）入園に際しては入園料を徴収）
事業内容	出品展示数：約20点（当館所蔵資料）
	関連事業：なし
事業成果	1993年の「世界の先住民の国際年」をひとつの契機として始まった世界的な先住民族を巡る環境変化の潮流の中で、日本においても2008年の国会での「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」可決などを経て、2020年に国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）がオープンした。本展示では、開館に至るまでの軌跡を年表と資料などを交えて、博物館の所在地の「ポロトの歴史」と、国内・国際的な動きを「世界と日本の中で」として紹介した。
担当者	立石・内田・田村



第1回エントランスロビー展示：「国立アイヌ民族博物館2020までの軌跡」

IV -03-03 2021（令和3）年度の特別展示及びテーマ展示の企画立案、計画策定、準備

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の館との人的往来、物的往来が阻害されたため、海外からの借用展を中心に、2020（令和2）年度、2021（令和3）年度の特別展示・テーマ展示の全体スケジュールの大幅な変更を余儀なくされた。再検討・再調整後の、2021年2月末時点の全体スケジュールは下記の通り。

1) 2020（令和2）年度（期間は休館日含む）

- ・開館記念特別展（第1回特別展示）：「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化～アイヌ文化を未来へつなぐ～」
→2020年7月12日（日、開館日）から11月8日（日）まで、120日間
- ・第1回エントランスロビー展示：「国立アイヌ民族博物館2020までの軌跡」
→2020年7月12日（日）公開
- ・第1回テーマ展示：収蔵資料展「イコロ資料にみる素材と技一」
→〔1期〕2020年12月1日（火）から2021年1月24日（日）まで、55日間
→〔2期〕2021年2月2日（火）から3月21日（日）まで、48日間
→〔3期〕2021年3月30日（火）から5月23日（日）まで、55日間

2) 2021（令和3）年度（期間は休館日含む）

- ・第2回特別展示：「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアンー 杉元佐一とアシリパが旅する世界一」
→2021年6月26日（土）から8月22日（日）まで、57日間
- ・第2回エントランスロビー展示：「国立アイヌ民族博物館のアイヌ語」
→【会期検討中】
- ・第3回特別展示：「国立民族学博物館巡回展：ピース」（仮称）
→2021年9月18日（土）から11月21日（日）まで、64日間

- ・第2回テーマ展示：[シリーズ各地のアイヌ文化]「白老アイヌの伝承展」（仮称）
→2021（令和）3年度冬季もしくは2022（令和4）年度春季
- ・第1回交流室展示：「触る、見る、聞く、国立アイヌ民族博物館」（仮称）
→2021年8月21日（土）から9月12日（日）まで、22日間

IV -03-04 東京パラリンピック等のイベントに関連したパネル展等の企画立案、計画策定

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、博物館のタッチパネル等接触型の展示は運用を停止することとなった。このことに伴い、資料に触ることを主目的としていた当イベントは、次年度に延期することとなった。なお、今年度は国立アイヌ民族博物館の点字パンフレットと、衣服などの触図資料を開発、製作した。これらの資料は次年度開催予定の当該イベントで展示資料として活用する予定である。

IV -03-05 基本展示の更新

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開館日が延長となったことに伴い、基本展示室の展示替えスケジュールは以下のように策定し、展示替え作業は計4回実施した。

1) 2020（令和2）年度展示替え作業スケジュール

- 第一期 7月12日（日）～9月6日（日）（展示期間：57日間）作業日9月7日（月）
- 第二期 9月8日（火）～11月1日（日）（展示期間：55日間）作業日11月2日（月）
- 第三期 11月3日（火）～12月27日（日）（展示期間：55日間）作業日12月28日（月）
- 第四期 1月5日（火）～2月28日（日）（展示期間：55日間）作業日3月1日（月）
- 第五期 3月2日（火）～5月5日（水）（展示期間：65日間）作業予定日5月6日（木）

2) 今年度基本展示室資料借用先

新ひだか町博物館・厚岸町教育委員会・釧路町教育委員会・釧路市教育委員会・川村カ子トアイヌ記念館・別海町教育委員会・北海道博物館・北海道立北方民族博物館・帯広百年記念館・沙流川歴史館・株式会社十勝毎日新聞社・函館市中央図書館・市立函館博物館・北海道立図書館・公益財団法人北海道埋蔵文化財センター・江別市教育委員会・北海道立文書館・北海道大学アイヌ・先住民研究センター・東通村教育委員会・平取町立二風谷アイヌ文化博物館・幕別町教育委員会・恵庭市教育委員会

3) 博物館公式ウェブサイトでの「今期のみどころ」の告知

第三期展示より「今期のみどころ」として、当該期のみどころ資料を各会期約2点取り上げ、「資料について」の解説とともに博物館の公式ウェブサイト上において公開した。

IV -03-06 音声ガイド機の維持管理、内容更新、携帯アプリの配信及びコンテンツの更新

音声ガイド機の維持管理及び内容の更新は、新型コロナウイルス感染予防対策の一環として機器の貸出を停止していたため今年度は実施しなかった。携帯アプリの配信及びコンテンツの更新については、配信している apple store のアカウント手続きとしてアップルデベロッパープログラムの更新を行った。

IV -03-07 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

第1回テーマ展示「収蔵資料展 イコロー資料にみる素材と技」のパンフレット（8ページ）を作成し、特別展示室にて無料で配布した。

なお、前年度に作成した開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～」（8ページ）を、会期中に特別展示室にて無料で配布した。また、同じく前年度に作成した『国立アイヌ民族博物館ガイドブック』（72ページ）を開業式典で配布したほか、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。



パンフレット2種とガイドブック



パンフレット2種とガイドブック

IV -04 調査研究

IV -04-01 調査研究事業

当館における調査研究事業は11月から本格的に開始した。アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究、そしてアイヌの歴史文化等に関する資料・資材・情報等の収集調査の計24件のプロジェクトを実施した。

実施したプロジェクトは下記の一覧の通りである。

2020（令和2）年度調査研究プロジェクト					
種別		調査研究課題名	専門G	代表者	メンバー
B個別研究	1	李志恒『漂舟録』にみられるアイヌの生活文化およびアイヌ語地名の検討	歴史社会・言語儀礼芸能	田村将人	深澤美香、シンウォンジ
	2	アイヌ語の中国語表記法	言語儀礼芸能	劉高力	深澤美香、小林美紀、矢崎春菜、中井貴規
	3	昭和年間の白老地区におけるアイヌのスケトウダラ漁の漁法と漁具の変遷について	物質文化	八幡巴絵	
	4	19世紀後半以前のアイヌの舟文化に関する研究	歴史社会・物質文化・文化財科学	藪中剛司	鈴木建治、大江克己
	5	アイヌ文化に関する絵葉書の歴史資料としての基礎的研究	歴史社会	田村将人	立石信一
	6	国立アイヌ民族博物館収蔵庫における気流調査	文化財科学	古田嶋智子	大江克己
	7	石田収蔵の野帳等資料を中心とした20世紀初頭の樺太先住民の民族誌に関する文献研究	歴史社会	是澤 櫻子	
	8	現代の作家を対象とした映像制作 - 阿寒在住の作家藤戸康平氏を対象として -	歴史社会	立石信一	
	9	白老におけるアイヌ文化空間をめぐる史的研究 - ポロトコタンの設立と運営を事例として -	歴史社会	立石信一	田村 将人、野本 正博（文化振興部長）
	10	国立アイヌ民族博物館基本展示室における展示体験深化のための、ワークシート開発機能の研究	教育	笹木一義	奥山英登、押野朱美、永石理恵、シンウォンジ、今野彩、カサド・バルド・ケラルル、両角佑子
	11	国立アイヌ民族博物館の来館者調査ならびに基本展示室の閲覧行動分析のための基盤研究	教育	笹木一義	奥山英登、シンウォンジ
	12	コロナ禍状況下での博物館展示のオンラインコンテンツの継続的な作成環境構築ならびに、博物館の教育活動におけるオンラインコンテンツの実効的な館内/館外利用のための基盤研究	教育	笹木一義	奥山英登
	13	アイヌ語表現・新語辞典作成にかかるプロジェクト	言語儀礼芸能	深澤美香	小林美紀、中井貴規、矢崎春菜
	14	X線CT装置を用いたアイヌ民族資料の測定条件最適化に関する研究	文化財科学・言語儀礼芸能	大江克己	中井貴規、竹内隼人、赤田昌倫、古田嶋智子
	15	寒冷地におけるアイヌ民族資料の保管環境の安定化-収蔵庫内床面の温度低下が収蔵棚に与える影響-	文化財科学	大江克己	古田嶋智子
	16	五感で楽しむ国立アイヌ民族博物館	物質文化・歴史社会	宮地 鼓	立石信一
	17	靱皮繊維の簡易鑑別に係る基礎研究	文化財科学	赤田昌倫	
	18	アイヌ文化における天然染料の利用に関する研究	文化財科学	赤田昌倫	
	19	現代のアイヌ民族の生業と民族意識の複雑性に関する人類学的研究	歴史社会	関口由彦	
	20	内なるMLA連携に向けたライブラリ機能の強化に関する基礎的研究	歴史社会	関口由彦	工藤綾華、笹木一義、奥山英登
C資料調査	1	アイヌの歴史・文化基礎研究領域における歴史・社会に関する資料調査	歴史社会	鈴木建治	霜村紀子、田村将人、関口由彦、立石信一、マーク・ウィンチェスター、是澤櫻子
	2	エムシアアの三色編みの調査	物質文化	北嶋由紀	八幡巴絵、藪中剛司、宮地鼓、日野貴文、中井貴規、竹内隼人
	3	染織資料の保存及び修復に関する調査	物質文化	宮地鼓	北嶋由紀、八幡巴絵、藪中剛司、日野貴文、中井貴規、竹内隼人
	4	民具の文化伝承活動についての資料調査及び聞き取り調査	物質文化	北嶋由紀	長谷仁美

IV -04-02 ネットワーク事業

1) 国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会及びネットワーク構築

a) 国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会設置

前年度まで文化庁にて設置していた「国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会」について、博物館準備室の閉室に伴い、新たに当財団に「国立アイヌ民族博物館ネットワーク協議会設立準備委員会」を設置した（2020年7月6日施行（公財ア研交第1号））。会議を9月と3月に2回開催し、ネットワーク構築に関する協議を行った。

当協議会の委員名簿は以下の通りである。

参加組織	氏名	地域
旭川市博物館	飯岡 郁穂	旭川
北海道博物館	小川 正人	札幌
市立函館博物館	奥野 進	函館
北海道大学植物園	加藤 克	札幌
新ひだか町博物館	斉藤 大朋	新ひだか
北海道立北方民族博物館	笹倉 いる美	網走
北海道博物館協会学芸職員部会	澤田 健	富良野
釧路市博物館	城石 梨奈	釧路
（公財）北海道埋蔵文化財センター	田口 尚	札幌
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	森岡 健治	平取
帯広百年記念館	山原 敏朗	帯広

・第1回会議：2020年9月5日

・第2回会議：2021年3月1日

b) アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカラ）の構築

国立アイヌ民族博物館を中心にした、アイヌの歴史、文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進や様々な事業を行う独自のネットワークを構築した。

準備委員会会議の中で、ネットワーク名（事業名）を「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカラ）」と決定した。そして、道内外の博物館関係機関を対象に入会募集を開始し53機関が入会した。

2020年度に入会した機関は以下の通りである（番号は入会申込順）。

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称プンカラ）会員館一覧

館員機関番号	施設・機関名
namnet 001	富良野市博物館
namnet 002	だて歴史文化ミュージアム
namnet 003	湧別町ふるさと館 JRY
namnet 004	浦幌町立博物館
namnet 005	厚真町軽舞遺跡調査整理事務所
namnet 006	天理大学附属天理参考館
namnet 007	恵庭市郷土資料館
namnet 008	厚岸町海事記念館
namnet 009	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
namnet 010	沙流川歴史館
namnet 011	根室市歴史と自然の資料館
namnet 012	苫前町郷土資料館
namnet 013	様似郷土館
namnet 014	しらおいイオル事務所チキサニ
namnet 015	登別市教育委員会（登別市郷土資料館）
namnet 016	北海道立埋蔵文化財センター
namnet 017	旭川市博物館
namnet 018	美幌博物館
namnet 019	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館
namnet 020	オホーツクミュージアムえさし
namnet 021	松浦武四郎記念館
namnet 022	北海道立北方四島交流センター
namnet 023	下川町ふるさと交流館
namnet 024	勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅
namnet 025	標茶町博物館ニタイ・ト
namnet 026	仙台藩白老元陣屋資料館
namnet 027	標津町ポー川史跡自然公園
namnet 028	浜頓別町郷土資料館
namnet 029	知内町郷土資料館
namnet 030	新冠町郷土資料館
namnet 031	北海道立北方民族博物館
namnet 032	札幌市アイヌ文化交流センター
namnet 033	北海道博物館

namnet 034	市立函館博物館
namnet 035	函館市北方民族資料館（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）
namnet 036	大黒屋光太夫記念館
namnet 037	北海道立文学館（公益財団法人北海道文学館）
namnet 038	アポイ岳ジオパークビジターセンター
namnet 039	釧路市立博物館
namnet 040	北海道立近代美術館
namnet 041	帯広百年記念館
namnet 042	國學院大學博物館
namnet 043	新ひだか町博物館
namnet 044	大阪府立近つ飛鳥博物館
namnet 045	新潟県立歴史博物館
namnet 046	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
namnet 047	知里幸恵 銀のしずく記念館
namnet 048	余市水産博物館
namnet 049	九州国立博物館
namnet 050	最上徳内記念館
namnet 051	室蘭市民俗資料館
namnet 052	苫小牧市美術博物館
namnet 053	美唄市郷土史料館

2) 学術連携協定の締結（1件）

共同研究の推進と教育活動の協力を目的とし、11月に当館と北海道大学アイヌ・先住民研究センターが学術連携協定を締結した。

IV -04-03 研究集会の企画・開催

国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催（1件）

北海道大学アイヌ・先住民研究センターと共催により、当館との学術連携協定に関するキックオフシンポジウムを3月に開催した。

北海道大学アイヌ・先住民研究センターと国立アイヌ民族博物館の学術連携協定

キックオフシンポジウム

「アイヌ文化の教育と人材育成」

北海道大学アイヌ・先住民研究センターと国立アイヌ民族博物館が2020年11月に学術連携協定を締結したことを記念し、キックオフシンポジウムを開催します。この学術連携協定では、研究教育機関として

アイヌ・先住民研究の推進及び大学院教育を通じた人材育成に取り組む北海道大学アイヌ・先住民研究センターと、国立博物館としてアイヌ民族文化の国内外への発信及び調査・研究・収集・展示などを行う国立アイヌ民族博物館が連携し、北海道という地域的利点を生かした学術研究と教育活動を推進していきます。本シンポジウムでは、アイヌの文化と歴史の世界へ向けた発信について、現状の取り組みを踏まえ展望と課題について考えます。

共 催： 北海道大学アイヌ・先住民研究センター、国立アイヌ民族博物館

日 時： 2021年3月13日（土） 13:00～16:00

開催方法： オンライン開催（事前申込制、質問も受付可）

※撮影場所： 北海道大学アイヌ・先住民研究センター1階会議室

プログラム（総合司会：藪中研究学芸部長）

13:00-13:05 あいさつ 加藤博文センター長

13:05-13:40 「北海道大学アイヌ・先住民研究センターの取り組み」

- | | |
|--------------------------|--------------|
| (1) 「先住民研究としてのアイヌ研究へ向けて」 | 加藤博文センター長 |
| (2) 「展示活動における博物館と大学との連携」 | 山崎幸治准教授 |
| (3) 「＜民族共生＞を实践する博物館活動」 | 北原モコットウナン准教授 |

13:40-14:15 「国立アイヌ民族博物館の取り組み」

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| (1) 「アイヌ文化復興のナショナルセンターとしての博物館の使命」 | 佐々木史郎館長 |
| (2) 「博物館開館から現在までの取り組み」 | 鈴木建治研究員 |

14:15-14:25 休憩

14:25-16:00 討論会（司会進行：加藤センター長）

「アイヌ文化の教育と人材育成、そして世界へのアイヌ文化の発信」

パネリスト 北大アイヌ研：加藤センター長、山崎准教授、北原准教授、

アイヌ博：佐々木館長、村木美幸副本部長、

八幡巴絵学芸主査、中井貴規研究員、北嶋由紀学芸員



学術連携協定キックオフシンポジウム「アイヌ文化の教育と人材育成」

IV -04-04 研究成果の社会発信

研究成果の社会発信として、論文（査読有）6件、論文（査読無）12件、寄稿・解説等31件のほか、学会発表（国外）4件、学会発表（国内）7件、講演会・講義20件を実施した。また、前年度からの継続より、「国立アイヌ民族博物館開館PR展ヤヨペヨペ」を道内2件、道外1件の計3件開催した。

1) 2020年度研究業績

2020年度の研究業績として、1. 論文（査読有）、2. 論文（査読無）※学術雑誌、研究報告書等、3. 学会発表〈国際学会〉〈国内学会〉、4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等、5. 寄稿・解説※一般誌、新聞、6. 図書、7. 外部資金の獲得状況として区分した

1. 論文（査読有り）

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文タイトル、雑誌名、巻（号）、発行年、最初と最後の頁、掲載論文のDOI

- 1) D., Tamburini, E., Breitung, Mori, C., Kotajima, T., M., L. Clarke, B., McCarthy, Exploring the transition from natural to synthetic dyes in the production of 19th-century Central Asian *ikat* textiles, *Heritage Science*, 8, 114, 2020, 1-27, <https://doi.org/10.1186/s40494-020-00441-9>.
- 2) 犬塚将英, 古田嶋智子, 高橋佳久, 紀芝蓮, 「鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例」『保存科学』60, 2021, 33-40
- 3) 権保慶, 「金時鐘『地平線』における「より朝鮮的なもの」—小野十三郎『詩論』・金素雲訳編『朝鮮詩集』との関わりから」『比較文学』63, 2021, 7-20.
- 4) Takafumi, H., Kanno, Y., Abe, S., Abe, T., Enoki, T., Hirao, T., Hiura, T., Hoshizaki, K., Ida, H., Ishida, K., Maki, M., Masaki, T., Naoe, S., Noguchi, M., Otani, T., Sato T., Sakimoto, M., Sakio, H., Takagi, M., Takashima, A., Tokuchi N., Utsumi, S., Hidaka, A., Nakamura M., Assessing insect herbivory on broadleaf canopy trees at 19 natural forest sites across Japan., *Ecological Research*, (印刷中, 2021年1月9日受理), DOI: 10.1111/1440-1703.12215
- 5) 佐々木史郎, 「ブリヤートの織機スフルの構造と特徴」『北海道民族学』17, 2021, 1-16.

2. 論文（査読なし）※学術雑誌、研究報告書等

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文タイトル、雑誌名、巻（号）、発行年、最初と最後の頁

- 6) 鈴木建治, 「浦河町立郷土博物館所蔵のアイヌ資料コレクションの形成について」, 『国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書 浦河町立郷土博物館所蔵資料目録』2021, 4-9 (印刷中)。
- 7) 高倉純・鈴木建治, 「北アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組みの構築」西秋良広編『アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組みの構築 2020年度研究報告』, 2021, 80-85 (印刷中)。

- 8) 佐々木史郎,「先住民族と歩む博物館を目指して—国立アイヌ民族博物館の開館に寄せて」『博物館研究』55(10)(No.629), 2020, 2-5
- 9) 佐々木史郎,「文化多様性とミュージアム：国立アイヌ民族博物館の試み」『文化資源学』18, 2020, 51-60
- 10) 小林美紀,「空間・場所を項とするアイヌ語動詞の結合価を増やす操作について—otke と kamu を例として—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22, 2020, 167-174
- 11) 太田歩, 笹木一義, 松山沙樹,「国際委員会セッション CECA 教育・文化活動国際委員会」『第25回 ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 報告書』, 国際博物館会議（ICOM）ICOM 京都大会 2019 組織委員会, 2020, 60-61
- 12) 笹木一義,「展示評価を取り入れた展示開発について—持続可能かつ効率的な展示評価を実現するための一事例」『全科協ニュース』50(5) (No.294), 全国科学博物館協議会, 2021, 7-9
- 13) 笹木一義,「カンピソシヌカラトンプ（国立アイヌ民族博物館 ライブラリ）の開設」明治大学（編）『明治大学司書・司書教諭課程年報』21, 明治大学司書・司書教諭課程, 2021, 29-30
- 14) 大江克己,「寒冷地におけるアイヌ民族資料の保管と虫菌害の防除対策について」『文化財の虫菌害』79, 公益財団法人文化財虫菌害研究所, 2021, 8-16
- 15) 深澤美香, 矢崎春菜,「アイヌ語の継承にむけて—国立アイヌ民族博物館の新たな挑戦」『月刊社会教育』64(10), 2020, 27-30
- 16) 深澤美香,「加賀家文書 翻刻・現代語訳4「アイヌ語解の歌」—蝦夷通辞によるアイヌ語学習歌—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22, 2020, 429-457
- 17) 立石信一,「北海道白老町 国立アイヌ民族博物館、町と人の記憶」『REKIHAKU』001, 国立歴史民俗博物館, 2020, 94-97

3. 学会発表

<国際学会>

※発表者名, 発表表題, 学会等名, 発表年月日, 発表場所

- 18) T. Kotajima, T. Ro, C. Sano, Air Quality and Naphthalene Concentrations in a Temporary Storage Facility for Museum Collections Damaged in a Tsunami, The 16th Conference of the International Society of Indoor Air Quality & Climate, 2020. 11. 1 - 11. 4, online
- 19) マーク・ウィンチェスター,『あとは人間の問題としなければならない』: 平村芳美とアイヌの先住民族運動模索期における反差別精神, 帝国の支配と認識、解体と葛藤: 国民国家の形成と東アジア, 主催: 翰林大学日本学研究所, 2021年2月26日, オンライン開催, 招待講演
- 20) Mio Yachita, Hibiki Yamamichi, Sokhorn Yon, Joseph Gonzales. (Re)claiming Identity: Cases of Reviving Traditional Dances in Cambodia, Malaysia and Japan, International Conference on Cultural Policy Research, 2021. 3. 25, online
- 21) Mio Yachita, Audrey Wong, Jennifer Lee, Shin Nakagawa, Sunitha Janamohanan, The Power of Networking in a COVID World: Updates from South East Asia, International Conference on Cultural Policy Research, 2021. 3. 26, online

<国内学会>

※発表者名，発表表題，学会等名，発表年月日，発表場所

- 22) 古田嶋智子，犬塚将英，博物館における化学物質の放散試験方法の検討ーサンプリングバッグのブランク濃度低減方法ー，文化財保存修復学会第42回大会，2020.6，要旨集のみ
- 23) 佐々木史郎 国立アイヌ民族博物館を開館してみても：展示を中心に課題を探る，北海道民族学会研究大会，2020年10月31日，だて歴史の杜カルチャーセンター
- 24) 笹木一義，奥山英登，押野朱美，佐藤優香，アイヌ文化の理解を深める「探究展示 テンパテンパ」ー国立アイヌ民族博物館基本展示内体験展示の制作背景，全日本博物館学会第46回研究大会，2021年，オンライン開催
- 25) 佐藤優香，笹木一義，奥山英登，押野朱美，行為をうながし，理解をうながし，興味に繋げるツールの開発ー国立アイヌ民族博物館「探究展示 テンパテンパ」の事例から，全日本博物館学会第46回研究大会，2021年，オンライン開催
- 26) 大江克己，山口翔太郎，山田哲也，中井貴規，竹内隼人，赤田昌倫，鈴木建治，藪中剛司，三浦博哉，佐々木史郎，アイヌ民族資料における板綴舟（イタオマチブネ）の保存修復，日本文化財科学会第37回大会，2020年9月4日，オンライン開催
- 27) 大江克己，中井貴規，山口翔太郎，竹内隼人，八幡巴絵，赤田昌倫，霜村紀子，佐々木史郎，国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ民族資料の収蔵環境の制御について，文化財保存修復学会第42回大会，研究発表集のみ
- 28) 谷地田未緒，押野朱美，芸能の継承ー「アイヌ古式舞踊」の保存継承をめぐる文化政策研究，文化政策学会，2021年3月27日，オンライン開催

4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等

<講演会・講義>

※講演・講義者名，題目，主催者，年月日

- 29) 是澤櫻子，ArCS 若手研究者海外派遣とシベリア先住民研究，越境社会文化論特殊講義，神戸大学，2021年1月14日
- 30) 是澤櫻子，日本とロシアの先住民政策の比較について，地域創生科目グローバル・ガバナンス（北海道），名古屋外国語大学，2021年2月12日
- 31) 古田嶋智子，鉛金属の腐食と空気環境との関係についての調査事例，「文化財の材質・構造・状態調査」に関する研究会，東京文化財研究所，2020年12月14日
- 32) 立石信一・谷地田未緒，専攻演習1-b 東京藝術大学大学院美術研究科GAP，2020年6月30日
- 33) 立石信一，社会創造論，多摩美術大学美術学部情報デザイン学科，2021年1月5日
- 34) 佐々木史郎，国立アイヌ民族博物館の魅力と課題：開館半年を迎えて，第508回みんなの会講演会，2021年1月9日，オンライン開催
- 35) 佐々木史郎，人と地域の未来を拓く博物館の可能性：国立アイヌ民族博物館の理念と役割，国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 2020年度博物館学芸員研修講座，2020年12月11日
- 36) 佐々木史郎，アヌココロ アイヌ イコロマケル：新しい国立博物館を検証する，ちえりあ講

座「そうだ、博物館に行こう！」, 2020年10月23日,

- 37) 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の役割と魅力, 北海道政経懇話会講演, 2020年8月26日
- 38) マーク・ウィンチェスター, 国立アイヌ民族博物館ウバシクマの展示とチョコロ ウバシクマ展示中の『アスタリアイヌ われら人間』について, 地域創生科目グローバル・ガバナンス(北海道), 名古屋外国語大学, 2021年2月12日
- 39) 北嶋由紀, アイヌ民族と衣服, 自由学校「遊」, 2020年7月15日
- 40) 笹木一義, ウポポイについて学ぶ — 国立アイヌ民族博物館での体験を深めるために, 札幌国際プラザ外国語ボランティア対象オンライン・セミナー, 2021年3月12日, オンライン開催
- 41) 笹木一義, 「2倍深く楽しむ! 国立アイヌ民族博物館」, 読売新聞 朝活 Sapporo Morning College, 2020年10月2日
- 42) 矢崎春菜, 講演会 アイヌの口承文芸を聞く, 北海道苫小牧東高校2020年度憲法講話, 2020年9月4日, 北海道苫小牧東高校
- 43) 矢崎春菜, 講演会 「知里幸恵ノート」と『アイヌ神謡集』, アイヌ文化普及啓発事業, 2020年10月18日, 北海道立図書館
- 44) 矢崎春菜, ことばからみたアイヌ文化, 縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座, 2020年12月3日, 北小金貝塚情報センター
- 45) 中川真, 谷地田未緒他, シンポジウム「アジアとともに — arts with COVID-19」、アートミーツケア学会2020年度大会, 2020年11月, オンライン
- 46) Mio Yachita, ゲスト 講義 Contemporary Artistic Expression and Ainu (Exhibition Histories and Curatorial Narratives 授業), シンガポール南洋理工大学 (Nanyang Technological University), 2021年2月, シンガポール (オンライン).
- 47) 中井貴規, 令和2年度アイヌ語指導者育成事業, 公益財団法人アイヌ民族文化財団, 2020年12月6日, 苫小牧生活館より Zoom 講義
- 48) 中井貴規, 文化人類学特殊Vゲスト講義「私とアイヌ文化 ～「私たち」の文化を学び、実践する～」, 慶應義塾大学, 2020年12月23日, 国立アイヌ民族博物館より Zoom 講義.

5. 寄稿・解説 ※一般誌, 新聞

※著者名(館スタッフにはアンダーライン), 論文標題, 雑誌名, 巻(号), 発行年, 最初と最後の頁

- 49) 宮地 鼓, 「モノから読み解く — 貝殻からアイヌの服飾まで」『北海道立北方民族博物館友の会季刊誌アークティック・サークル』115, 2020, 14-17.
- 50) 宮地 鼓, 「世界が注目したアイヌの技」(ウポポイオルシペ4)『北海道新聞 苫小牧・日高(朝刊)』2020年11月25日.
- 51) 是澤櫻子, 「どんな言葉を求めるか — ロシアの先住民組織の視点から」(特集: イタク ことばをつなぐ)『K』no.001, Knit-K, 2021, 38-40
- 52) 鈴木建治, 柳瀬由佳, 直江康雄, 「2020年度の北海道内における発掘調査の概況」『北海道考古学』57, 2021, 117-118 (印刷中).
- 53) 立石信一, 「キュレーターズノート 国立アイヌ民族博物館2020～開館を目前に控えて」,

- 『artscape』, 2020年4月15日号
- 54) 立石信一, 「キュレーターズノート 『コミュニティ』と『祭り』のあり方 — 飛生芸術祭から見えてくるもの」『artscape』, 2020年9月15日号
 - 55) 佐々木史郎, 「五感で接するアイヌ文化」(特集 ウポポイでアイヌ文化を魅せる)『月刊みんぱく』, 9月号, 2020, 2-3
 - 56) 佐々木史郎, 国立アイヌ民族博物館の概要と使命, 文部科学教育通信, 501号, 4-5頁, 2021年
 - 57) マーク・ウィンチェスター, (書評)「新法、象徴空間を考える 『アイヌの権利とは何か』 テッサ・モーリス＝スズキ、市川守弘、北大開示文書研究会編」『北海道新聞 朝刊』, 2020年9月6日
 - 58) マーク・ウィンチェスター, 「真志保のことばに向き合う」(特集: イタク ことばをつなぐ)『K』no.001, Knit-K, 2021, 28-33.
 - 59) 小林美紀, 「ウポポイでのアイヌ語表示・展示解説の試み」(特集 ウポポイでアイヌ文化を魅せる)『月刊みんぱく』9月号, 2020, 4-5
 - 60) 小林美紀, 「アイヌ語表示」(ウポポイオルシペ3)『北海道新聞 苫小牧・日高朝刊』2020年11月11日, 17面
 - 61) 北嶋由紀, 「木彫アペフチカムイ: 火の神優しさと荒々しさ表現」(特集 ウポポイのお宝)『朝日新聞』2020年8月5日
 - 62) 北嶋由紀, 「手仕事とともに生きる: 取材依頼及び原稿の修正」(特集 ワンダフルウーマン)『Min T oma』2020年秋号, 2020年8月20日, 12~13
 - 63) 北嶋由紀, 「作り手たちの思いと技術をつなぐ」(特集 ウポポイでアイヌ文化を魅せる)『月刊みんぱく』9月号, 2020, 45
 - 64) 北嶋由紀, 「糸で下絵 手間をかけ作製」(ウポポイオルシペ2)『北海道新聞 苫小牧・日高朝刊』2020年10月21日
 - 65) 北嶋由紀, 「アットウシ 樹皮衣」(特集: イコロ資料に見る素材と技)『苫小牧民放』2021年1月
 - 66) 北嶋由紀, 「ウレシバクラブを巣立って」(特集: イタク ことばをつなぐ)『K』no001, Knit-K, 2021, 52-53
 - 67) 北嶋由紀, 「アイヌ語動画」アイヌ民族文化財団, 2021年2月15日収録
 - 68) 北嶋由紀, 「やさしい時間」セイコーホールディングス, 2021年3月4日インタビュー、<https://www.seiko.co.jp/140th/>
 - 69) 笹木一義, 「アミプ」(特集 ウポポイのお宝3)『朝日新聞北海道版』, 2020年7月31日
 - 70) 大江克己, 「後世へ資料を引き継ぐための展示・収蔵環境の整備」(特集 ウポポイでアイヌ文化を魅せる)『月刊みんぱく』9月号, 2020, 8-9
 - 71) 大江克己, 「X線CT装置: 内部の痕跡から製作の技探る」(特集 ウポポイのお宝)『朝日新聞』, 2020年8月12日
 - 72) 大江克己, 「科学分析装置の活用」(イコロ—資料にみる素材と技2)『苫小牧民報』, 2020年12月26日
 - 73) 大江克己, 「収蔵資料の科学分析 CT装置で内部を調査」(ウポポイオルシペ7)『北海道新聞 苫小牧・日高朝刊』, 2021年1月13日
 - 74) 関口由彦, 「民族意識と多様な生き方」(ウポポイ展示品紹介4)『十勝毎日新聞』, 2020年8

月 15 日

- 75) 関口由彦, 「ウポポイで学ぶ先住民アイヌの歩みー多民族と共に生きる社会」『教育旅行』, 2021 年 5 月号
- 76) 矢崎春菜, 「文化の多様性伝える, ウポポイを語る」(アイヌ民族文化財団に聞く 6)『苫小牧民報』, 2020 年 7 月 11 日
- 77) 矢崎春菜, 「アイヌの物語」(ウポポイのお宝 1)『朝日新聞』, 2020 年 7 月 15 日
- 78) 矢崎春菜, カンピ(紙)ー知里真志保の原稿(物語) アイヌ語の研究の記録, イコロ 資料に見る素材と技, 4, 苫小牧民報, 2021 年 1 月 23 日
- 79) Mio Yachita, Starting a New Chapter: The Opening of UPOPOY National Ainu Museum and Park. ICOM ICME Newsletter Issue 91, ICOM ICME, 2020
- 80) 谷地田未緒他, ウイマム文化芸術プロジェクト報告書「アースダイブ白老」におけるインタビュー記事掲載, 2020 年 12 月
- 81) 谷本晃久, マユンキキ, 谷地田未緒. 「アースダイブ白老: アイヌ語地名から探る土地の記憶【アフタートーク】」松田仁央編『ウイマム文化芸術プロジェクト 2020 年度活動記録集』(同プロジェクト事務局), 2021 年
- 82) 中井貴規, 「マレクとイサパククニ」(ウポポイのお宝 8)『朝日新聞朝刊』, 朝日新聞デジタル, 2020 年 8 月 25 日
- 83) 中井貴規, 「【シキナ(ガマ)】ごぎ・花ごぎ」(イコロ 資料にみる素材と技 1)『苫小牧民報』, 2020 年 12 月 12 日
- 84) 中井貴規, 「シキナとウッシ」(ウポポイオルシベ 9)『北海道新聞 苫小牧・日高(朝刊)』 2021 年 2 月 10 日
- 85) 古田嶋智子, 「繊維の染色と科学的調査 伝統的染色技法を再現」(イコロ 資料にみる素材と技 6)『苫小牧民報』 2021 年 2 月 27 日
- 86) 深澤美香, 「知里真志保のカード」(ウポポイのお宝 10)『朝日新聞北海道版』, 2020 年 9 月 1 日
- 87) 深澤美香, 「山田秀三の『北海道の旅と地名』」(イコロ 資料にみる素材と技 7)『苫小牧民報』, 2021 年 3 月 13 日
- 88) 深澤美香, 「国立アイヌ民族博物館とアイヌ語」『K』 no.001, Knit-K, 2021, 35-37, 2021 年 3 月 15 日

6. 図書

※著者名, 論文名, 編者名, 書名, 出版社, 発行年, 担当ページ, 総ページ数

- 89) 笹木一義, 「多民族共生に向けて博物館ができることー国立アイヌ民族博物館の開館とその社会的役割」, 小川義和・五月女賢司(編著)『発信する博物館ー持続可能な社会に向けて』ジダイ社, 2021, 94-117, 354
- 90) 是澤櫻子, 「現代のアイヌ民族表象の背景と歴史実践」, 方法論懇話会(編)『療法としての歴史〈知〉』森話社, 2020, 64-79, 336

2) 外部資金の獲得状況

当館はまだ科学研究費助成事業（科研費）への応募資格を有していないが、研究員・学芸員が所属（兼務）する他の機関から申請することで、科研プロジェクトに研究代表者、研究分担者になったり、あるいは研究協力者として参画したりすることはできる。

2020年度の科研費を含む外部資金獲得状況は以下の通りである。

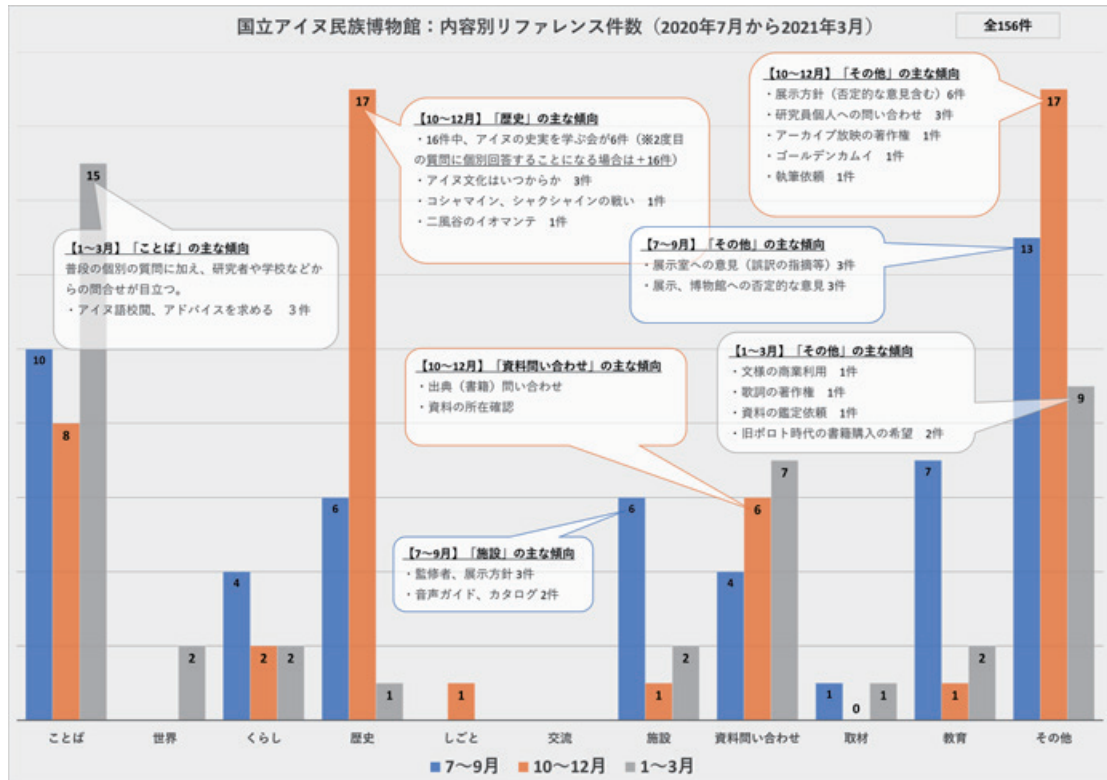
- 91) 鈴木建治 科学研究費助成事業（新学術領域研究） 2016年度～2020年度 「パレオアジア文化史学」（代表：西秋良宏）研究協力者
- 92) 鈴木建治 科学研究費助成事業 基盤研究（C） 2020年度～2022年度 「在ロシア博物館所蔵のアイヌ・コレクションの形成過程に関する研究」 研究代表者
- 93) 大江克己 科学研究費助成事業（基盤研究A） 2018年度～2022年度 「古代～中世の「鑰石」と「真鑰」の研究—金に等しい価値があったころ—」（代表：西山要一）研究協力者
- 94) 日野貴文 科学研究費助成事業 基盤研究（C） 2020年度～2023年度 「人為攪乱はシカの森林動態への影響を促進・抑制するか？—大規模長期操作実験での検証」 研究代表者
- 95) 谷地田未緒 国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成 2019年10月～2020年9月 「アジアの文化政策研究プラットフォーム形成事業」
- 96) 古田嶋智子 科学研究費助成事業（若手研究） 2019年度～2022年度 「木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案」 研究代表者
- 97) マーク・ウィンチェスター 科学研究費助成事業 基礎研究（S） 2016年度～2021年度 「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」（研究代表者：竹沢泰子）研究協力者
- 98) 立石信一 科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽）） 2020年度～2022年度 「国立博物館における先住民族の権利実現の可能性と課題—アイヌとマオリの比較研究」（代表：松本裕子（小坂田裕子））研究協力者
- 99) 関口由彦 科学研究費補助金（基盤研究C） 2017年度～2021年度 「アイヌの日常的エスニシティの再編と多文化共生社会に向けた民族誌的研究」 研究代表者

IV -04-05 レファレンス

1) 概要

- ・レファレンス対応件数 156件（2020年7月から2021年3月）
- ・FAQ「よくある質問」15問を作成し、国立アイヌ民族博物館公式ウェブサイトに公開した（「よくある質問—アイヌの歴史・文化の基礎知識」<https://nam.go.jp/inquiry/>）。

2) 2020 年度問合せの内容別件数と特徴



3) FAQ 作成の経緯

国立アイヌ民族博物館にて 2020 年度から開始されたリファレンス業務の一環としてまとめられたものである。当館では、「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という理念を掲げており、その実現に向けて、博物館としての基本的な考え方やスタンスを示す目的として正しいアイヌ文化の知識を整備した。

本 FAQ における質問は、研究交流室（鈴木建治、日野貴文、是澤櫻子）、展示企画室（笹木一義）、教育普及室（関口由彦）が中心となり選定された。質問に対する回答は、各専門グループ（物質文化グループ、言語儀礼芸能グループ、歴史社会グループ）が主に執筆し、博物館内での精査を経て作成された。

4) FAQ 公開に対する新聞社の反応

- ・2020年10月19日 ウポポイ 発信強化 中傷相次ぎ HP に解説文 北海道新聞
- ・2020年10月27日 ウポポイ、相次ぐ批判に Q & A アイヌの歴史どう伝える 朝日新聞デジタル
- ・2020年10月29日 HP で情報発信強化 ネットや電話 相次ぐ中傷受け 苫小牧民報

IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備

研究機関における公的研究費の管理・監査及び研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを基に、当財団における規程を1件、当館の要領等を5件定めた。また、査読付きの学術論文を6

件投稿した。

なお、2020年度に定めた研究に関する規定・要領等は以下の通りである。

公益財団法人アイヌ民族文化財団公益研究費管理規定

国立アイヌ民族博物館における研究活動上の不正行為に係る通報等に関する取扱規程

国立アイヌ民族博物館科学研究所補助金等取扱規程

国立アイヌ民族博物館における公的研究費不正防止計画

国立アイヌ民族博物館検収窓口取扱要領

国立アイヌ民族博物館の研究活動における行動規範

IV-04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施

2020年度は浦河町立郷土博物館所蔵のアイヌ資料625点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。調査報告は『国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書—浦河町立郷土博物館所蔵資料目録』として1000部作成し、約500部を関係各所に送付した。

IV-04-08 刊行物

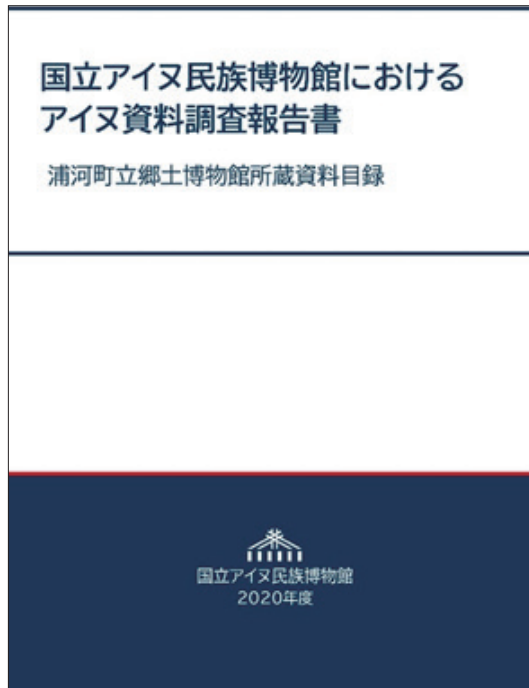
1) ニュースレター「アヌアヌ」

2020年度は創刊号から3号まで刊行した。部数は3000部で、関係各所に送付した。



創刊号から3号までの表紙

2) 『国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書』



国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ資料調査報告書の表紙

IV -04-09 国際交流

1) 国際オフィスの活動

国際オフィスは、博物館の専門グループとして「博物館機能強化系」「調査研究系」の二つのグループからは独立して設立された。2020年度は2名体制で、1名は博物館多言語化担当（展示企画室）、1名は国際交流担当（研究交流室）となった。以下は、研究交流室・国際交流担当分の実績である。

a) 国際対応の環境整備等

- ・国際案件対応のため、博物館及び国立民族共生公園、札幌の財団本部の3部署の担当者からなる「国際タスクフォース」を立ち上げ、以降国際交流の方針策定や海外要人受け入れの体制を整備した。
- ・多言語対応担当者と協力の上、未整備であった組織・部署名、肩書等の正式な英語名称を策定した。
- ・博物館における海外発信文書の体制を整備した。
- ・開館を知らせるレターを海外の関係団体へ発出した。
- ・ウポポイへ来訪する海外要人対応の基本方針を策定した。

b) 海外要人受け入れ（大使等）

以下6件の海外要人を受け入れた。

- 9月3日 台北駐日経済文化代表処札幌分処 周学佑（Chou Shyue-yow）処長
- 9月9日 ドイツ連邦共和国大使館 イナ・レーペル（Ina Lepel）大使
- 9月11日 オーストラリア大使館 リチャード・コート（Richard Court AC）大使
- 10月27日 在札幌米国総領事館 アンドリュー・リー（Andrew Lee）総領事

11月13日 ヨルダン・ハシェミット王国大使館 リーナ・アンナーブ（Lina Annab）大使

11月25日 オランダ王国大使館 文化担当官

IV -05 資料の収集、保管、活用

IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

1) アイヌ文化関係資料等の受入

a) 資料の買取

新規買取の結果は、申出者計7名、資料計95件計110点。概要や関係会議等は下記のとおり。

◆第1回購入：申出者1名、資料49件50点。

資料は民具全般。これからの基本展示や調査等に向けて、イクパスイ、マキリ、イタ、エチウシヤトッキなどを中心に購入した。また状態が良く、収集点数の少ないテンキ草の編み袋も購入した。

<関係会議等>

2020（令和2）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2020年11月18日
2020（令和2）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2020年12月14日
2020（令和2）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取評価	2020年12月26日

◆第2回購入：申出者6名、資料46件60点。

資料は民具全般と古文書。北海道アイヌだけではなく、樺太アイヌ、ウイльта、ニヴフと各地、各民族にわたる資料を購入した。生活に根付いた資料や、観光用の工芸品は、アイヌ民族をはじめとした先住民族の近現代の歴史や文化、伝承の様子を説明する資料となっている。

<関係会議等>

2020（令和2）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2021年2月12日
2020（令和2）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2021年2月22日
2020（令和2）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取評価	2021年2月26日

b) 資料の寄贈

新規寄贈の結果は、申出者計8名、資料計8件計11点。資料の概要や関係会議等は下記のとおり。

<概要>

北海道内だけではなく、道外からも寄贈の申出がなされた。民具だけにとどまらず、木彫作品（木彫り熊など）、写真、音声資料等を受贈した。製作者、製作年代、製作地など基礎的な情報がわかる資料、あるいは基礎的な情報につながる資料が多いため、今後の展示や調査研究に資する。

<関係会議等>

2020（令和2）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2021年2月12日
2020（令和2）年度第1回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2021年2月26日



2020年11月18日開催の鑑査会議

2) 資料の貸出

仙台藩白老元陣屋資料館に1件5点の貸出。期間：2020年8月16日～9月30日。

3) 関係要領、収蔵品の定義、収集方針、買取基準等の制定

- ・「国立アイヌ民族博物館鑑査会議、買取協議会、買取評価員、寄贈評価員の運営等に関する要領」「国立アイヌ民族博物館文化財貸借要領」をそれぞれ定めた。
- ・2020年11月18日開催の鑑査会議において、収蔵品の定義について定めた。別紙の収集方針と買取基準のもとアイヌ関係資料等の受入を行った。

4) 資料受入の大まかな流れ

- ・買取：希望申出⇒鑑査会議⇒買取協議会⇒買取評価⇒合意の上、契約へ
- ・寄贈：希望申出⇒鑑査会議⇒寄贈評価⇒合意の上、契約へ
- ・寄託：希望申出⇒鑑査会議⇒合意の上、契約へ

5) 関係会議の概要

- ・鑑査会議：8名で審議。収集方針の策定、文化財の買取、寄託者からの受託、寄贈者からの贈与、列品への編入又は解除、列品の修理、その他博物館において規定する事項を審議する。
- ・買取協議会：5人以上で審議。鑑査会議をうけて、資料等の買収の適否について、外部有識者の公正な意見を求めるために開催。
- ・買取評価：7人以上で行う。買取協議会をうけて、買取予定価格算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。
- ・寄贈評価：5人以上で行う。寄贈資料の評価額算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。

IV -05-02 博物館内及び旧社台小収蔵庫における列品等の整理及び整備

2020（令和2）年度クリーニング点数

2020年	4月	0点
	5月	1点
	6月	26点
	7月	93点
	8月	59点
	9月	56点
	10月	32点
	11月	105点
	12月	33点
2021年	1月	16点
	2月	77点
	3月	101点
合計		599点

IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理

国立アイヌ民族博物館では、アイヌの歴史・文化等に関する調査と研究を行うため、展示や研究対象となる資料を収集している。当博物館収蔵品について、目的・用途に応じて体系的に分類・整理のうえ、データベースとして一元的に管理し、適切な保存に努める。あわせて、収蔵品情報を一般の利用に供する。一元管理用の管理システムと一般の利用に供する公開システムがある。

- ・収蔵品管理システム：データベースのうち、当館収蔵品及び利用等に関する履歴、教育活動の記録等の情報をデータベース化して一元管理するシステム。
- ・収蔵品公開システム：データベースのうち、収蔵品管理システムで管理する収蔵品等の主な情報を抽出して公開し、一般の利用に供するシステム。

1) 収蔵品管理システム登録状況

旧アイヌ民族博物館の資料と2015（平成27年）度から2019（令和元）年度までの文化庁購入資料について登録作業を行った。2021年3月9日時点での登録件数。

a) 資料に関わる登録

- ・資料登録件数 9,255 件。
- ・画像登録件数 7,156 件。

b) その他、特別利用・辞書機能に関する登録

- ・展示 25 件：基本展示や特別展示等で使用した資料を登録。
- ・貸与 1 件：仙台藩元陣屋資料館への貸与について登録。
- ・修理 21 件：資料クリーニングについて月ごとでの登録。
- ・教育 1 件：教育コンテンツとしての登録。
- ・和暦辞書 1 件：令和の登録。

- ・アイヌ語辞書 81 件：主に、公開用の単語を登録。
- ・和名辞書 27 件：主に、公開用の単語を登録。
- ・住所録 14 件：美術資料の作者名や資料貸借の担当者名などを登録。
- ・コレクション 19 件：年度別の購入資料についても登録。
- ・分類 88 件：大分類・中分類・小分類について登録。
- ・テーマ 59 件：公開用のための検索ワードとして登録。

2) 公開件数

2020 年 10 月 16 日に当館公式ウェブサイトにて公開 (<https://archives.nam.go.jp/DB/>)。アクセス数は総計 43,275 (2021 年 3 月 14 日時点)。

- ・資料公開件数：155 件
- ・画像公開件数：416 件

3) 保守管理

システムの定期メンテナンスを 2 回実施。2020 年 9 月 25 日、2021 年 3 月 9 日ともに異常なし。

IV -05-04 資料の熟覧・画像利用

博物館が所蔵する資料の利用に関する規定、要領等を定め、資料の利用を開始した。資料利用に係る規定、要領、要項とは以下の通り。

- ・国立アイヌ民族博物館列品管理規定
- ・国立アイヌ民族博物館資料利用要項
- ・国立アイヌ民族博物館職員資料利用要領
- ・国立アイヌ民族博物館特別観覧要領

IV -05-05 分析機器運用

CT など調査分析機器等を適切に運用するとともに、良好な状態で使用できるよう保守管理を行った。

1) X線CT装置の設置について

世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2019（令和元）年度納品予定であった X 線 CT 装置が事故繰越となった。2020（令和2）年度の 5 月末に納品日が延期されたため、装置設置に関わる対応を実施した。仕様書で定められている技術要件のうち、三次元画像の再構成時間や三次元画像の自動合成の調整を中心に対応を実施した。文化庁調査官と共に検修し延滞なく納品した。

2) 3Dスキャナ及び3Dプリンタの調達

2020（令和2）年度実施予定の、3Dスキャナ及び3Dプリンタの調達を実施した。3Dスキャナは、広域（普通車 1 台程の範囲）を約 0.1mm の分解能で測定可能な性能の装置、約 30cm 四方を約 0.05mm の分解能で測定可能な性能の装置の 2 台を調達した。3Dプリンタは、約 20cm の物を分割することなく出力可能な装置 1 台を調達した。

3) CTなどの科学分析装置の運用

当館設置の複数の科学分析装置の運用を実施した。加えて、科学分析装置の利用に関するマニュアル案や利用届の整備を進めた。運用実績を下記に記す。

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| a) 蛍光X線分析装置 | : ニンカリ、イコロ等の元素分析（16件/32回使用） |
| b) 携帯型蛍光X線分析装置 | : ニンカリ、イコロ等の元素分析（14件/157回使用） |
| c) X線回折装置 | : 機器の調整に伴う標準試料の分析（1件/5回使用） |
| d) 走査電子顕微鏡 | : 染色資料片等の拡大観察及び元素分析（4件/4回使用） |
| e) X線CT装置 | : シントコ、マキリ等の構造調査（215件/215回使用） |
| f) レントゲン撮影装置 | : 屏風、巻物、トンコリ等の内部観察（13件/27回使用） |
| g) デジタルマイクロスコープ | : 衣類、絵画等の表面の拡大観察（5件/20回使用） |
| h) 三次元蛍光分光分析装置 | : 染色資料片等の彩色の分析（4件/20回使用） |
| i) ハイパースペクトルカメラ | : 染色資料片等の彩色の分析（4件/20回使用） |
| j) キセノン型耐候試験機器 | : 染色資料片等の劣化調査（2件/10回使用） |
| k) 純水製造装置 | : 蒸留水の使用（1件/1回使用） |
| l) 恒温恒湿機・恒温機 | : 機器保守に伴う利用（1件/1回使用） |
| m) 真空凍結乾燥機 | : がま、オオウバユリの標本資料の作成（2件/6回） |

4) 科学分析装置の保守管理について

調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。保守として、納品後1年間の製品保証が付属するため保証内での対応である。下記に実施内容を記す。

- | | |
|-----------------|---|
| a) 蛍光X線分析装置 | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| b) X線回折装置 | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| c) 走査電子顕微鏡 | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| d) X線CT装置 | : 納品後の機器点検（1回実施）
制御用ソフトウェアのバージョンアップ（1回実施）
制御用ソフトウェアの不具合対応（3回実施） |
| e) 三次元蛍光分光分析装置 | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| f) ハイパースペクトルカメラ | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| g) キセノン型耐候試験機器 | : 納品後の機器点検（1回実施）
初期不良による部品交換（1回実施） |
| h) 純水製造装置 | : 納品後の機器点検（1回実施） |
| i) 恒温恒湿機・恒温機 | : 納品後の機器点検（1回実施） |

IV -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）

博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画を作成し、適宜実施した。

1) 収蔵庫の空気汚染物質濃度について

継続的に空調制御による空気循環を繰り返し、低減対応を施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認した（測定：2回実施）。

2) 収蔵庫内の温湿度制御と空調停止時の温湿度調査

空調制御による一般収蔵庫、特別収蔵庫内の温湿度制御を実施した。温度 20°C、相対湿度 55～60%程度で安定した推移をしている（測定箇所：7箇所、温湿度データ回収：6回実施）。加えて、非常時を想定し空調停止時の温湿度調査を実施した。7日間程度は収蔵庫内の温湿度は維持できることがわかった。4月末から5月にかけての暖かい時期の調査のため、冬季は温湿度維持ができる期間は短いことが予想された（調査：2回実施）。

3) 展示室及び展示ケース内の温湿度制御

当館が開館した夏季より本格的な展示室の温湿度測定を開始した。夏季（6－8月）は、特別展示室で一時期、平均相対湿度が60%を超えた。対応として、閉館後の防火扉を閉めることで室内の温湿度変化を緩和させ、空調制御値を調整し調湿可能な範囲での制御を実施した。冬季（12－2月）は、特別展示室の展示ケース内に温度が低い箇所があった。外壁からの冷気の伝達が考えられる。直ちに問題が発生することはないが結露の発生等に注意が必要である（温湿度データ回収：12回実施、調湿剤対応：4回実施）。

4) 展示ケース内の空気汚染物質濃度の低減

展示室内及び展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査を実施した。各ケースにガス吸着剤を設置し、全体的に東京文化財研究所の指針値以下の状態を維持している。ただ、基本展示室の交流の独立ケースのみ指針値上限付近の値を示したため、ガス吸着剤の増量や交換頻度を上げて対応した（空気汚染物質濃度：6回測定、ガス吸着剤の設置：6回実施）。

5) 害虫トラップの設置による虫菌害の監視

館内各所に害虫トラップを設置し1ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査した。館内の害虫の侵入は少ない状態を維持できた（設置箇所：105箇所、交換回数：10回実施）。特別収蔵庫の扉付近のみチャタテムシの捕獲数が増加傾向の時期があった。対応として、虫が潜みやすい隙間にピレスロイド系殺虫剤を噴霧し防虫剤を設置した結果、捕獲数は減少し良好な状態に改善された（対応：2回実施）。

IV -06 教育普及

IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施

1) 遠隔授業

当館側の遠隔授業システムを活用し、3校（小学校1校、中学校2校）に対し3回の遠隔授業を実施した。

- ・2020年8月25日（火）、10月8日（木）

幌延町立幌延中学校3年（19名）、幌延町立問寒別中学校3年（1名）

教科等：社会科（公民分野）、総合的な学習の時間

- ・2020年10月29日（木）

登別市立若草小学校4年（59名）

教科等：総合的な学習の時間

2) 出前授業

苫小牧市の高校1校に講師として研究員を1名派遣し、出前授業を実施した。また、当館における出前授業の対象や範囲を設定した。

・実施日：2020年9月4日（金）

実施校（生徒数）：北海道苫小牧東高等学校（全学年720名）

3) ホリデーイベント

ホリデーイベントについては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、試行的に2020年8月と2021年1月から毎週、通算14回実施した（工作型6件、講演型1件、対話型4件、ガイド型3件）。また記録及び試行運用検証のためアンケートを作成した。

ホリデーイベント参加人数

開催日	タイトル	事前申込／名	計参加人数／名 <small>（事前申込者・内部スタッフ含む）</small>	備考
2021年 1月9日（土）	みんなのうたおどり♪		30	
1月16日（土）	テンパテンパしてみよう！①		27	午前・午後合計
1月23日（土）	自分だけのミニタマサイを作ろう！		12	
1月30日（土）	よりよりカエカ（糸より）でストラップ		7	
2月6日（土）	よりよりカエカ（糸より）でストラップ		12	
2月13日（土）	テンパテンパしてみよう！②		25	午前・午後合計
2月20日（土）	粘土にアイヌ模様をかいてみよう		10	
2月27日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」①		29	
3月6日（土）	伝承から自然災害を記憶する一津波		42	
3月13日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」②		30	
3月20日（土）	もっと知りたい！「収蔵資料展 イコロ」③		28	
3月27日（土）	テンパテンパしてみよう！③		42	午前・午後合計
			294	



ホリデーイベント「よりよりカエカ（糸より）でストラップ」



ホリデーイベント「自分だけのミニタマサイを作ろう！」



ホリデーイベント「もっと知りたい！『収蔵資料展 イコロ』①」

4) ギャラリートーク

ギャラリートークは、新型コロナウイルスを考慮しながら探究展示（「かわりにテンパテンパ」）と「ことば」展示（「Touch itak」）で実施し、通算 8,965 組 19,435 名の来館者に対応した。



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」



ギャラリートーク「Touch itak」



ギャラリートーク「Touch itak」

IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

前年度までに検討されたプログラムの実施は見送り、工芸者研修のみ実施した。当館と協定を結んでいる北海道アイヌ協会とのプログラムを実施した。受入について方針を固めたのち、計12日（1泊2日×6回）にわたり1名の受入を行った。調査者の希望から、白老地方を含む北海道噴火湾沿岸部とみられる衣服等の16着の調査を実施した。

IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

北海道博物館をはじめとして、他の国公立博物館の博物館実習受入状況について調査・検討するとともに、旧（一財）アイヌ民族博物館の博物館実習について検証し、学芸員実習受入取扱要領（案）を作成した。

IV -06-04 博物館ライブラリの運営

日本図書館協会のガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して、ライブラリの試験運用を行ったうえで、9月より密を避けるため人数制限を行いながら開室し、図書の閲覧（11,703人）、複写（69件）、レファレンス（142件）に対応した。

また、図書館システムへの図書の登録作業を約9,000冊分行い、7月にOPAC（蔵書検索システム）を公開するとともに、図書館間相互利用のため、国立情報学研究所による目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に加入した。

加えて、旧社台小学校に仮置きしている図書のうち約6,000冊を当館閉架書庫へ移送し、併せて資料状態の良くない一部の図書については、燻蒸を行った。

IV -06-05 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム

主に教育旅行で来館する小学校から高等学校までを対象とした学習プログラム「はじめてのアイヌ博」及び小学3、4年生向けの平易なクイズ形式の学習プログラムを開発し、今年度は延べ196件12,523名の児童生徒及び引率者に対して実施した。また、事前の打ち合わせを行いながらも、新型コロナウイルス感染拡大による旅行延期や、滞在時間の調整からキャンセルになった学校が合計33校あった。内訳は以下の通り

校種	小学校	104	49%
	中学校	85	39%
	中学校（特別支援学級）	0	0%
	高等学校	21	10%
	特別支援学級	0	0%
	特別支援学校（中学部）	3	1%
	特別支援学校（高等部）	3	1%
	その他	0	0%
	合計	216	100%

学年	小学校	1	0	0%
		2	0	0%
		3	2	1%
		4	23	11%
		5	12	6%
		6	67	31%
	中学校	1	13	6%
		2	26	12%
		3	46	21%
	高等学校	1	4	2%
		2	12	6%
		3	5	2%
	特別支援学級	1	0	0%
		2	0	0%
		3	0	0%
		4	0	0%
		5	0	0%
		6	0	0%
	特別支援学校（中学部）	1	0	0%
		2	1	0%
		3	2	1%
特別支援学校（高等部）	1	0	0%	
	2	3	1%	
	3	0	0%	

地域	オホーツク	8	4%
	札幌	62	32%
	空知	14	7%
	釧路	1	1%
	後志	8	4%
	根室	3	2%
	宗谷	5	3%
	十勝	4	2%
	上川	12	6%
	石狩	11	6%
	胆振	46	24%
	渡島	10	5%
	日高	6	3%
	留萌	1	1%
	檜山	1	1%
	合計	192	100%

プログラム	はじめてのアイヌ博	179	91%
	はじめてのアイヌ博（3・4年生）	1	1%
	遠隔授業	3	2%
	教材開発協力	2	1%
	連携学習	11	6%
	合計	196	100%

人数	児童生徒	11,328	90%
	引率	1,195	10%
	合計	12,523	100%

教科等	社会科	13	7%
	地理	1	1%
	歴史	1	1%
	公民	4	2%
	道徳	0	0%
	総合学習	98	50%
	特別活動	76	39%
	その他の教科	3	2%
	教科がわかるケース	196	99%
	教科がわからないケース	1	1%
	実施件数	197	100%

時間	滞在時間の平均	176分	2:56 h
	見学時間の平均	57分	0:57 h

学習事前調査票 / アンケート	調査票の回収	167	85%
	アンケートの回収	78	40%
	実施件数	196	

IV -06-06 学校教育と連携した取り組みの企画立案

IV -06-01 で博物館における教育事業として、学校教育と連携した出前授業・遠隔授業の実施状況を記載済み。

IV -07 一般運營業務

IV -07-01 利用サービス

1) 新型コロナウイルス対策全般

混雑時には状況に応じて入場規制を実施し、常に来館者が安心して利用できる環境づくりに努めた。新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、1階エントランスロビーおよび2階展示室入口に下記の文言のポスターを作成し、掲示した。

- ・マスクの着用をお願いします。
- ・展示ケースやモニターなどに触らないでください。
- ・「密集」、「密接」を避けるため、人と人との間隔（2mを目安）をとってください。
- ・大きな声での会話はお控えください。
- ・展示室内の「密集」を防ぐため、入場制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

タッチパネル式モニターや探究展示等も運用停止となったため、該当するモニター等の前には下記の文言を入れた掲示物を作成し、掲示した。

・新型コロナウイルス感染防止のため運用を停止しています。

また、各掲示はできる限り多言語対応も行い、ピクトも同時に用いるなど来館者にわかりやすい掲示になるよう努めた。



飛沫防止パネル

2) 整理券による入館者制限

a) ウェブ予約システムによる入場制限

（公財）日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに準じて、展示室における1時間当たりの収容人数を制限するべく、ウェブ予約システムを導入し入場制限を行った。

- ・2020年7月12日～10月2日 110名/時間
- ・2020年10月3日～2021年3月31日 200名/時間

b) 混雑時の入場規制および待機者の整理

展示室、シアター内、ライブラリ内において、混雑してきて来館者が快適に観覧できない状況の場合は、一時的に来館者への入場規制を実施し、安全確保に努めた。

3) 消毒薬の設置

当館内では8箇所に設置し、徹底的な消毒を促した。

当館職員の取り組みとして、北海道知事の要請に準じて、マスク着用の徹底、検温及びアルコール消毒等を実施した。



アルコール消毒スタンドの設置

4) 観覧者の利便性向上のための対策

a) 館内での利用案内

来館者が快適に博物館を利用できるように、館内での案内スタッフをポジションごとに配置し、展示室への案内、障がい者・高齢者等の利用サポート、外国人来館者への多言語案内等、常に来館者のニーズに対応できるように努めた。

b) 受付

来館者の要望、ニーズに応じられるように、各施設、プログラムの案内、チラシやパンフレットの配布、また来訪者への連絡対応、外国人来館者への多言語対応等の各種サービスの提供を行った。

c) 電話対応

ウポボイお問合せ窓口への自動音声案内導入に伴い、2020年12月15日より博物館に関する電話問合せの対応を行った。また、管理簿をもって問合せと対応内容について情報を蓄積し、職員と情報を共有するとともに、電話対応の向上に努めた。

d) 館内放送

来館者からの要望で、迷子等の捜索や拾得物の問合せがあった場合は、無線機等でスタッフ間での情報共有を行い対応した。

定期的に新型コロナウイルス感染拡大防止の対策について放送し、来館者に注意喚起を行った。

e) 障がい者・高齢者等の利用サポート

車椅子、杖、またご高齢の来館者については、積極的に声掛けを行い、要望への対応、各展示室への案内、サポートを行った。

f) ガイドアプリの利用案内

公式ウェブサイトダウンロード方法等について掲載し利用案内を行った。

g) 外国人来館者への多言語対応

エントランスロビーに多言語の当館リーフレットを設置し、外国人来館者への利用案内を行った。また、外国人の当館の利用促進を確保するため、公式ウェブサイトでも多言語による利用案内や、英語による特別展示やテーマ展示の案内を行った。

・広報物作成部数

チラシ 50,000部

パンフレット 50,000部（日本語 40,000部／英語 10,000部）

・配付先

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 720 件

・メディアの取材

内覧会は実施したが、当時、事業課での対応はなかったため情報なし。

b) 第1回テーマ展示（収蔵資料展イコロ）

・第1回テーマ展示ポスター



第1回テーマ展示「収蔵資料展イコロ—資料に見る素材と技—」ポスター

・広報物作成部数

チラシ 50,000部

パンフレット 10,000部

・配付先

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 439 件

・メディアの取材

メディア数 7社

室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局、苫小牧民報社白老支局、北海道新聞、テレビ北海道、NHK 苫小牧支局、しらおい振興センター白老町広報編集室

c) 北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの学術連携協定の取材対応

日程 2020年11月13日（金）

メディア数 10社

テレビ北海道報道部、読売新聞東京本社、北海道支社苫小牧支局、しらおい振興センター白老町広報編集室、苫小牧民放白老支局、室蘭民報白老支局室、北海道新聞社報道センター、NHK室蘭放送局苫小牧支局、北海道大学総務企画部広報課学術国際広報担当、朝日新聞社苫小牧支局



北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの学術連携協定

2) 博物館を含むウポポイの情報発信及び各種広報

a) 公式ウェブサイト

ウポポイ公式ウェブサイト（<https://ainu-upopoy.jp/>）ではプログラムや各種イベント等の総合的な情報発信を行った。当館公式ウェブサイト（<https://nam.go.jp>）では常に最新の情報を閲覧者に提供できるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止による一部施設等の利用内容の変更や、展示情報、お知らせ、イベントなどについて、更新を行うとともに、公式ウェブサイトに異常が発生しないよう管理を行った。

b) SNS

2つのSNSを運用し、各種広報を行った。

Facebook：<https://www.facebook.com/upopoy/>

Instagram：<https://www.instagram.com/ainumuseumpark/>

c) 園内マップ・パンフレット

来園者に各施設やプログラムについて情報を提供するため、園内マップ及びプログラムのパンフレットを製作し、配布した。プログラムに変更があった場合は随時内容の改修を行ったほか、臨時の変

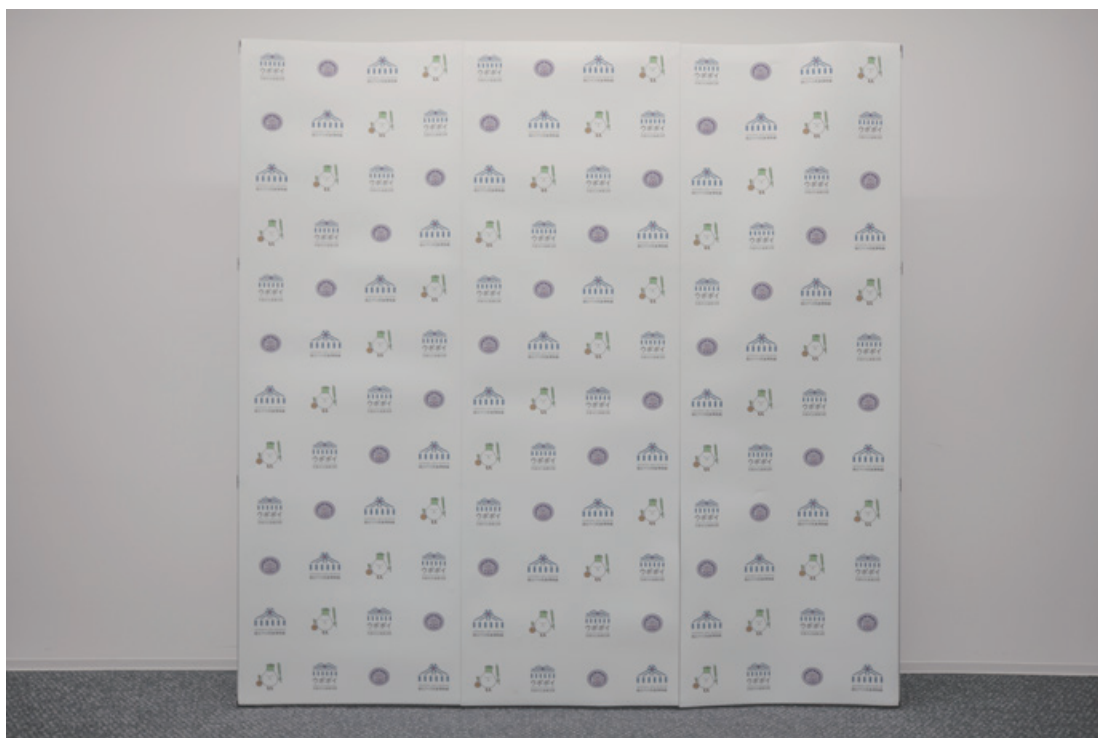
更があった場合には、ウポポイ公式ウェブサイト及び園内のデジタルサイネージに掲載することで、常に最新の情報を来園者へ提供した。パンフレットやポスター等を交通アクセスのポイントや公共施設等で掲示した。

d) そのほかの広報

施設やプログラム等の営業情報、イベント等の企画情報などを各種報道機関、雑誌やウェブサイト等への発信に取材対応し、施設の認知、利用促進への広報活動を図った。

3) ロゴマーク並びに PR キャラクターを利用した広報活動

ロゴマーク及びトゥレツポンを印刷したバックボードを制作し、報道機関が集まる調印式や記者会見で使用することで、テレビ、新聞、インターネット利用者に向けた広報活動を行った。



バックボード

公共団体や報道メディアほか、一般事業者や団体などからのロゴマーク並びに PR キャラクター「トゥレツポン」の利用依頼について対応を行った。利用の周知として公式ウェブサイトに専用ページを作成し、専用のアドレスにて利用申請を受付し管理運営を図った。

<https://ainu-upopoy.jp/download/>

4) 教育旅行誘致に関する事業

北海道観光振興機構主催の教育旅行誘致事業を中心に、国・北海道・民間等の主催事業へ参加し、広報誘客活動を行う年間広報営業計画を策定した。新型コロナウイルスの影響によりすべての事業が中止となったため、公式ウェブサイトでの専用ページの設定で利用促進を図った。

<https://ainu-upopoy.jp/education/summary/>

5) 地方自治体等が行うウポボイ PR 活動等との連携

北海道観光振興機構主催事業を中心に、国・北海道・民間等の主催事業へ参加し、広報誘客活動を行う年間広報営業計画を策定した（道外旅行会社向け説明会・商談会・道外メディア向け説明会・トラベルフェスタ等の道外イベントでのPRなど）。新型コロナウイルスの影響によりすべての事業が中止となったため、公式ウェブサイトやSNSを活用した発信、各機関からの取材対応を行う事でのPRを図った。

IV -07-03 事業予算

当館は文化庁直営だが、その運営は公益財団法人アイヌ民族文化財団に委託されている。その事業費は文化庁から財団に送られる委託費と入場料やテナント料などの事業収入とでまかなわれる。

収 入		支 出	
内 訳	予算額(千円)	費 目	予算額(千円)
入場料・テナント料等	504,921	設備備品費	108,378
委託費	1,140,475	人件費	389,056
		事業費	500,646
		再委託費	497,735
		一般管理費	149,581
計	1,645,396	計	1,645,396

本誌は当博物館公式ウェブサイト上で電子版を公開しています。
<https://nam.go.jp/>

国立アイヌ民族博物館
年報 2020（令和2）年度

発行日 2022年12月28日

編集 国立アイヌ民族博物館

発行 国立アイヌ民族博物館

北海道白老町若草町2丁目3番1号

<https://nam.go.jp/>

ISSN 2758-5131

非売品

© 2022 国立アイヌ民族博物館

an=ukokor aynu ikor oma kenru
National Ainu Museum
Annual Report
2020



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間